

INDUSTRIAL ELECTRONICS

FS-70 FS-50

FX-3

FAM System

取扱説明書

音楽表現の新境地をひらく、エレクトーンFAMシステムFS-70・FX-3・FS-50。

つねに新しい音と表現力を目指すヤマハが、最新のエレクトロニクス技術と楽器づくりのノウハウを総結集して完成させた最高級のスピネット型エレクトーンFS-70・FX-3・FS-50。それは、奏者のこまやかな心の機微、繊細な感性をどこまで表現できるかを追求して開発された、まさに画期的なエレクトーンです。

ヤマハが世界で初めて採用したタッチコントロール機能は、指先による音楽表現を実現。奏者の豊かな感情を鍵盤にたくし音楽を思いのままに表現できるこの機能は、演奏表現の可能性を、新しく、大きくひろげました。

音源には、FAMシステムという、ヤマハが誇る先進のエレクトロニクス技術を導入。音色のリアルさと厚みを飛躍的に向上し、ナチュラルで生き生きとした楽音、迫力あるリズム音を創出します。さらに、レジストレーションなど演奏に必要な要素をすべて記憶させることができ、あくまでも鍵盤に集中して、演奏表現を追求できる設計になっています。より高い音楽性を求めて探究し到達したヤマハの大きな成果、エレクトーンFS-70・FX-3・FS-50。その無限ともいえる表現の可能性を最大限に引きだしてください。

ご使用上の注意



必ず、AC100Vのコンセントから電源を。

大型クーラーやセントラルヒーティングの電圧は、AC(交流)200Vのものがあります。誤って接続すると大変危険ですので、充分ご注意ください。また、船舶などでは、DC(直流)電源を使用している場合がありますので、よくお確かめください。



エレクトーンの内には、絶対ふれないで。

エレクトーンの改ざりや部品の取りはずしは、大変危険ですので、絶対におやめください。故障などと思われる場合は、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



電源プラグの扱いに注意。

ぬれた手で電源プラグに触れると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持って抜いてください。



内部に水が入った場合は。

誤まって水などをかけ、エレクトーンの内に入ってしまった場合は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた上で、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



スライドぶた、譜面板の取扱いについて。

スライドぶたを開けるときは、手前を少し持ち上げ、手に持ったまま静かに押し込みます。指や物を巻き込まないように注意してください。また、スライドぶたの上には重い物を乗せないでください。譜面板を上げ下げするときも、しっかりと持ち、手をはさまないように気をつけてください。(FX-3の譜面板は、椅子の中に収納されています。)



電源スイッチを切り忘れないように。

電源が入ったまま長時間放置すると、発火の原因になることがありますので、使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。

各部の名称

()内の数字は、
本書で説明しているページ数です。

グラボ(19)

オートリズム(20)

ソロ音色・効果(14)

アッパーコンビネーション(7)

ローコンコンビネーション(12)

アッパーオーケストラ(9)

ローオーケストラ(12)

アッパースペシャルプリセット(10)

ロースペシャルプリセット(12)

アンサンブル(6)

アッパー/ロー
カスタムボイス(11)

ペダルコンビ
ネーション(13)

ペダルカスタムボイス(13)

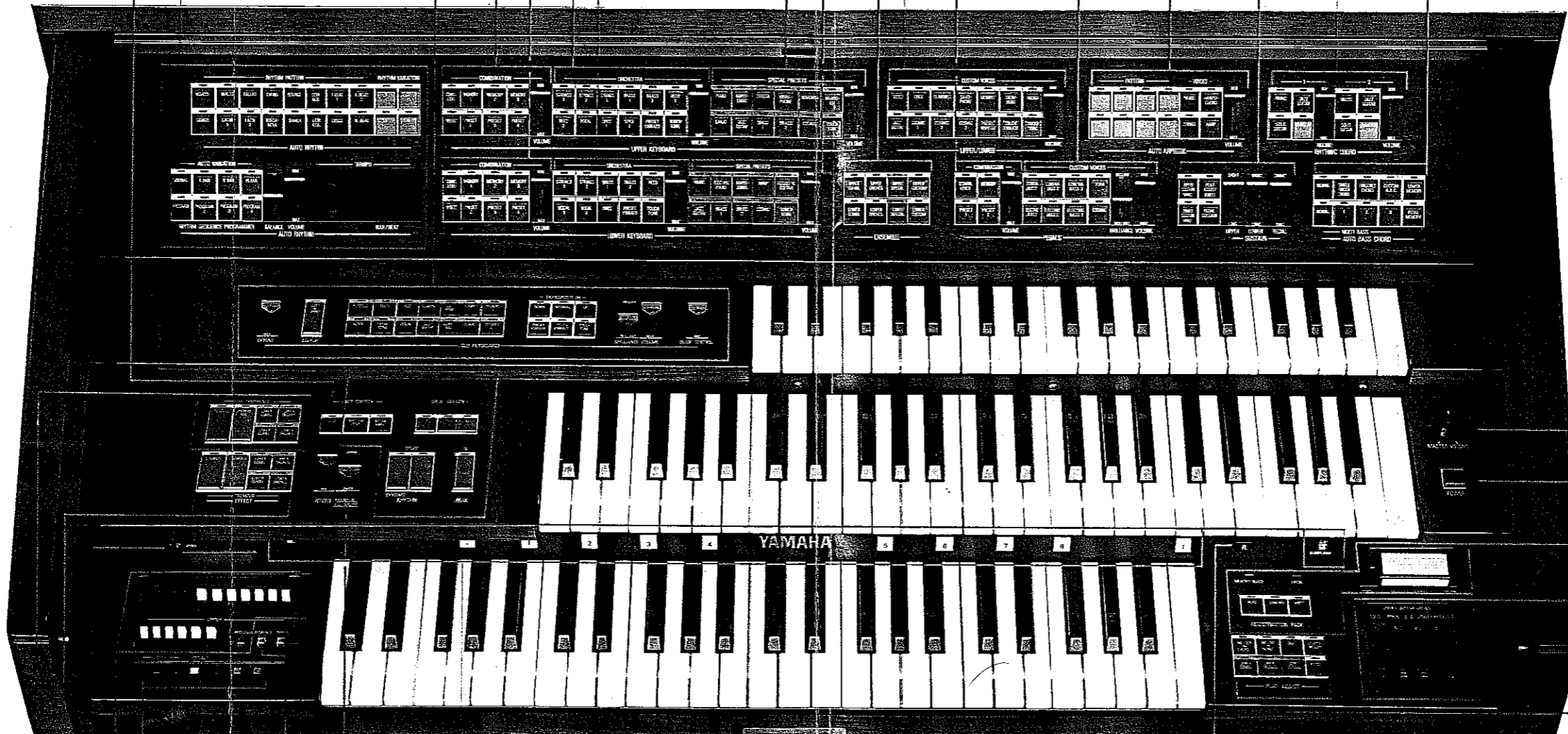
オートアルペジオ(24)

サステイン(19)

リズムコード(25)

オートベース/コード(26)

(FS-3のパネル面は、
外装以外FS-70と同じです。)



FS-70

- マスターボリューム(33)
- パワースイッチ(32)
- レジストレーションバック(32)
- ビブラート(16)
- プレイアシスト(28)
- リセット(31)

リズムシーケンス
プログラマー(22)

コンビネーション
レバー(5)

トレモロスピード(18)

トレモロ(18)

シンフォニック(18)

レジストレーションメモリー(30)

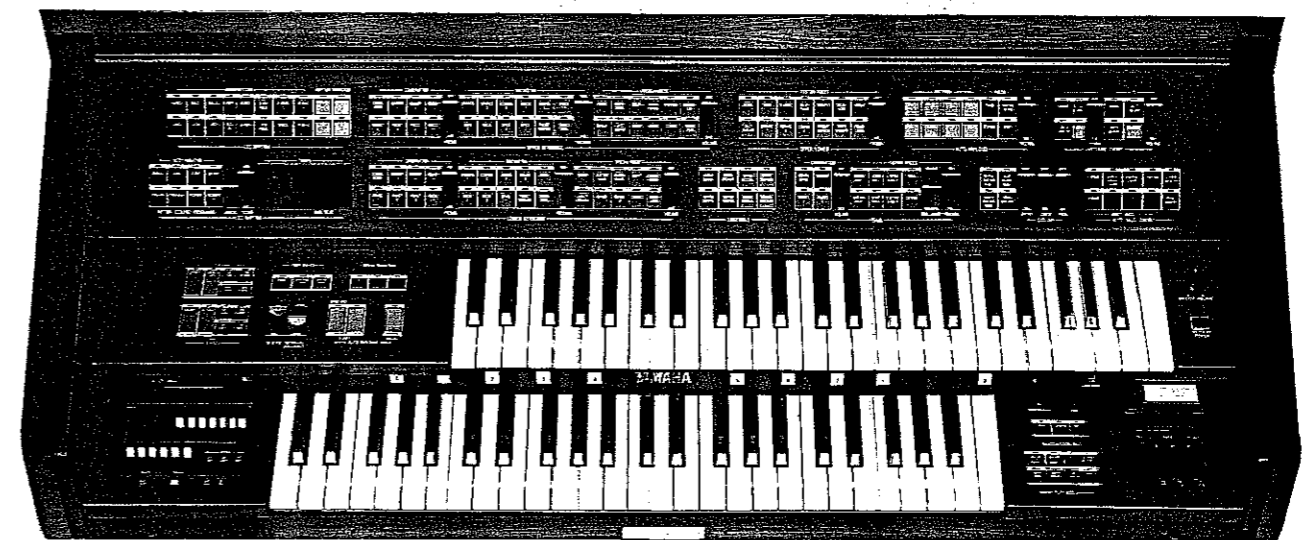
マニュアルバランス(19)

リバーブ(19)

ティンバーバリエーション(8)

レスポンスファースト(8)

FS-50



(ソロ鍵盤関係の機能以外、FS-70と同じです。)

INDEX

(ページ数)

- FS-70・FX-3・FS-50の特長 ②
- 基本的な音づくりの手順 ④
- I. アンサンブルセクション ⑥ アンサンブル
- II. 上鍵盤の音色群 ⑦ コンビネーション
- ⑨ オーケストラ
- ⑩ スペシャルプリセット
- ⑪ カスタムボイス
- III. 下鍵盤の音色群 ⑫ コンビネーション・オーケストラ
スペシャルプリセット・カスタムボイス
- IV. ペダル鍵盤の音色群 ⑬ コンビネーション・カスタムボイス
- V. ソロ鍵盤の音色と効果 ⑭ ソロ音色
- VI. 効果・コントロール ⑮ ビブラート
- ⑯ シンフォニック・トレモロ
- ⑰ サステイン・その他
- VII. リズムセクション ⑳ リズムパターン・リズム・バリエーション
- ㉑ ブレークバリエーション・オートバリエーション
- ㉒ リズムシーケンスプログラマー
- VIII. 演奏補助機能 ㉔ オートアルペジオ
- ㉕ リズミックコード
- ㉖ オートベース/コード
- ㉘ プレイアシスト
- IX. レジストレーションメモリーシステム ㉚ レジストレーションメモリー
- ㉛ レジストレーションパック
- X. その他のコントロール ㉝
- 付属端子・トーンキャビネットコネクター ㉞
- 取扱上の注意 ㉟ 末永く安全にお使いいただくために・
レジストレーションパックの保管
- 故障と誤りやすい現象 ㊱
- サービスと保証 ㊳
- 仕様と音域表 ㊵

画期的な表現力と高度な音楽性——FS-70・FX-3——

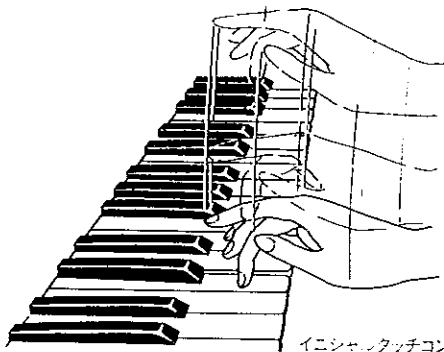
指先による音楽表現を可能にした タッチコントロール。

独自に開発した鍵盤メカニズムと電子回路によって、従来の電子オルガンでは考えられなかった、鍵盤タッチによるサウンドコントロールを実現しました。これは、鍵盤をおさえる指のタッチによって音量・音色に変化をつけるもので、音楽表現の可能性を大きくひろげた画期的な機能です。このタッチコントロール機能には、イニシャルタッチコントロールとアフタータッチコントロールとがあり、より多彩な表現を可能にしています。

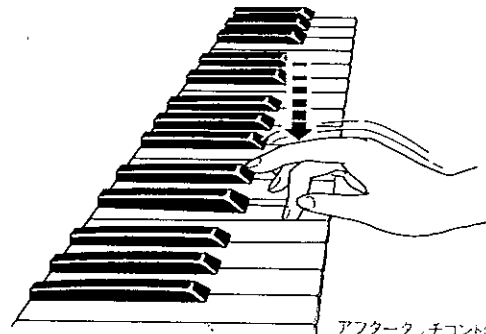
イニシャルタッチコントロールとは、鍵盤をたたくときに、立ち上がりの音量・音色を変化させる機能です。鍵盤を強く、速くたたくほど音量は大きくなり、音色もさまざまに変化します。例えば、ピアノのタッチレス

ポンスや、トランペットの立ち上がりの音色変化など、楽器音の特徴をリアルに描きだすことができます。

アフタータッチコントロールとは、鍵盤をおさえた後、さらにおさえつけることで音量・音色を変化させる機能です。鍵盤を強くおさえつけるほど、音量は大きく、音色は明るくリッチな感じになります。例えば、ストリングスの豊かな感情表現や、ブラスのロングトーンにおける音色変化などが思いのままです。さらに、カスタムボイスとソロの音色群では、アフタータッチによって、ビブラートもコントロールすることが可能です。



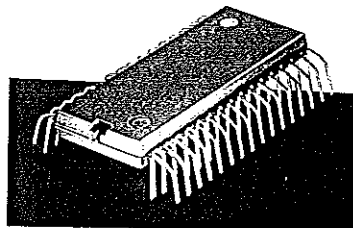
イニシャルタッチコントロール



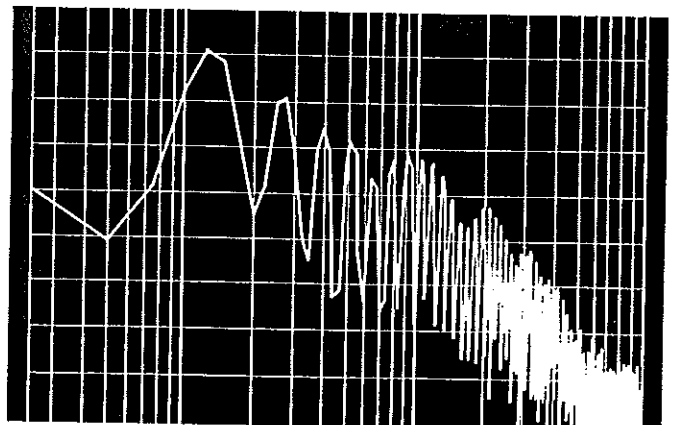
アフタータッチコントロール

FAMシステムによるナチュラルで、ダイナミックな音質。

ヤマハが世界に先がけて電子オルガンに導入した先進の音源技術、それがFAMシステムです。FAM(Frequency Modulation and Advanced Memory)システムとは、すでに高い評価を受けているFM音源方式と、FWM(Full Wave Memory)音源方式を総称したもので、よりナチュラルで豊かな楽音、リアルなリズム音の創出に成功しました。FM(フリーケンシーモジュレーション=周波数変調)が生み出す特異な倍音スペクトルに着目し、ヤマハが世界で初めて楽器の音源に導入したのがFM音源方式です。このFM音源方式には、多くの画期的なメリットがあります。従来のフィルター式音色回路では得られなかった不規則な倍音成分が取りだせるのも、そのひとつです。このことにより、すべての音色でアコースティック楽器にきわめて近い楽音が得られるようになりました。さらに、独自のデジタル技術を駆使することによって、波形が一瞬一瞬で複雑に、微妙に変化し、生き生きとしたサウンドを実現します。リズム音源に採用したFWM音源方式とは、実際の打楽器音をPCM(デジタル変換)録音によって収録し、音源信号としてメモリーした方式です。デジタル技術によりメモリーされた波形が、迫力あるビビッドなリズム音を再生します。



FAMシステムに使われている超LSI

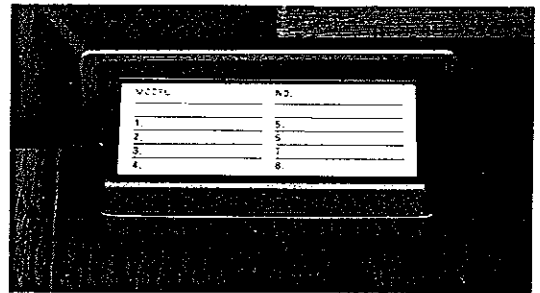


周波数変調による不規則倍音成分

FS-50の特長

操作性を大幅に向上させたレジストレーションメモリーシステム。

パネル面の操作にわずらわされることなく、鍵盤での表現に集中できるように開発されたのが、レジストレーションメモリーシステムです。徹底したLSI化、デジタル化によって、音色、効果、リズムなどのセッティング、さらにはセットしたボリュームの位置まで、演奏に必要な情報はすべて記憶させることが可能になりました。記憶させた音色やボリュームの位置は、すべてパネル面に再現されますから、レジストレーションを日でも確認することができます。また、メモリーした情報をパックに移し、いつでも好きなときに繰り返し使用することもできます。さらに、オルガン音色をつくりだすコンビネーションレバーの組み合わせや、個々の音色ごとにプリセットできるピブラート、リズムの再生順序なども、全体のレジストレーションに加えて、それぞれメモリーしておくことができ、よりオリジナリティが発揮できる設計となっています。



レジストレーションバンク



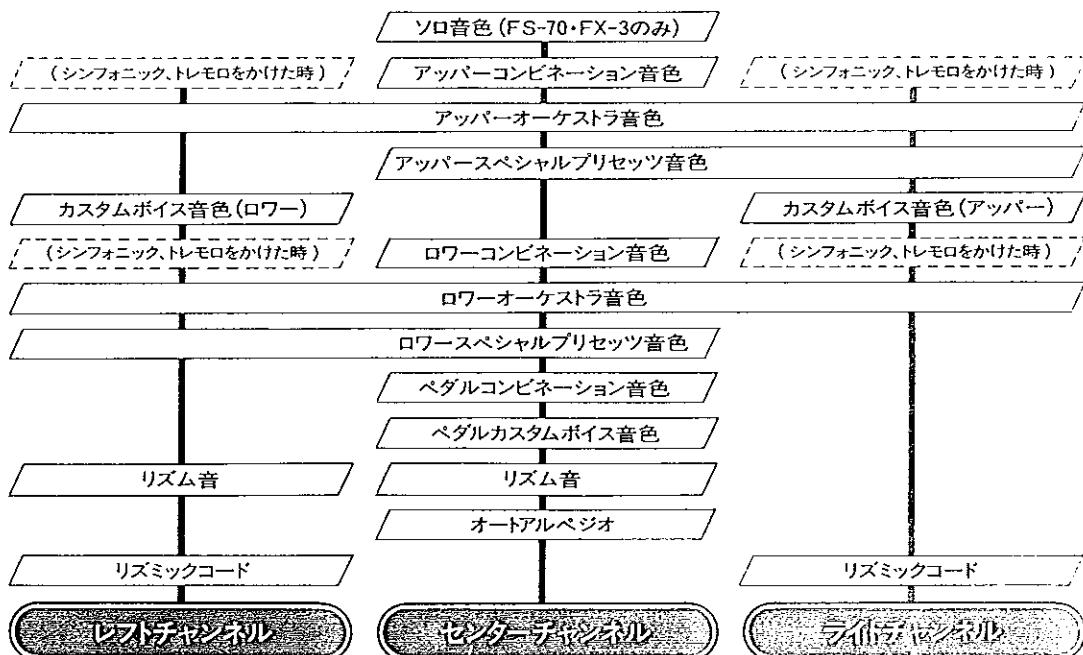
レジストレーションメモリー

迫力ある響きを生む、新しいサウンドシステム。

FAMシステムのハイクオリティな音を、さらに豊かに仕上げ、その真価を十分にひきだすため、新しい3チャンネルサウンドシステムを採用しました。それぞれの性格やバランスを考え、各音色群の音やリズム音などが3つのチャンネルへ効果的に振り分けられています。このことによって、最高級モデルにふさわしい立体感と広がり感をもたせることに成功しました。

さらに、経験豊かなヤマハのオーディオ技術を駆使することによって、

3チャンネルのアンプ・スピーカーシステムを独自に開発しました。スピーカーシステムでは、30cmウーファをセンターチャンネルに、20cm スコーカーと5cmツイーターをそれぞれ3チャンネルに配置し、ダイナミックな重低音からクリアな高音まで、ひずみなく幅広く再現します。また、アンプ出力も総合210Wのハイパワーを誇り、迫力あるサウンドを実現しています。(FS-70・FS-50)



基本的な音づくりの手順

FS-70・FX-3・FS-50の音色は、各鍵盤とも豊富な音色群によって構成されています。特に上・下鍵盤では、4つの音色群を自由に組み合わせることができるため、幅広く多彩な音づくりが可能です。また、ペダル鍵盤でも2つの音色群を組み合わせられるようになっています。各音色群では、それぞれひとつの音色を選ぶ方式になっていますが、コンビネーション音色では、プリセットされているオルガンサウンドが得

られるほか、レバーの組み合わせをメモリーしておくことで、思い通りのサウンドも得られます。音色を選んだ後は、別個に効果をかけて音の性格を強調し、音量のバランスをコントロールしながら、音色を組み合わせさせていただきます。さらに、各鍵盤ごとに効果を加え、必要に応じてリズムセクション、演奏補助機能をセットすれば、音づくりが完成します。そして、これらすべてのレジストレーションは、あらかじめメモリーしておく

各音色群のなかで音色を選ぶ。

個々の音色に効果を加え、音量をコントロールする。

ソロ鍵盤

(FS-70のみ)

ソロ

アッパーコンビネーション

アッパーオーケストラ

アッパー/ロワーカスタムボイス

アッパー/ロワーカスタムボイス

ロワーコンビネーション

ロワーオーケストラ

ロワースペシャルプリセット

ペダルコンビネーション

ペダルカスタムボイス

上鍵盤

下鍵盤

ペダル鍵盤

タッチトーン・プリセットビブラート・
タッチビブラート・ブリリアンス・
ボリューム

レスポンスファースト・
ティンバーバリエーション・
シンフォニック・トレモロ・ボリューム

タッチトーン・プリセットビブラート・
シンフォニック・トレモロ・ボリューム

タッチトーン・ボリューム

タッチトーン・プリセットビブラート・
タッチビブラート・ボリューム

レスポンスファースト・
ティンバーバリエーション・
シンフォニック・トレモロ・ボリューム

タッチトーン・プリセットビブラート・
シンフォニック・トレモロ・ボリューム

タッチトーン・ボリューム

ボリューム

ブリリアンス・ボリューム

アンサンブル

ことができ、レジストチェンジもスピーディに行えますから、演奏中は鍵盤での音楽表現に集中することができます。

また、新しいサウンドシステムの採用により、3つのチャンネルに各鍵盤の音色群、リズム音などが効果的に振り分けられていますから、立体的で迫力のあるサウンドを実現します。

★各鍵盤の発音数

ソロ鍵盤 (FS-70・FX-3)……1音

上・下鍵盤……………両方の鍵盤を合わせて、最高12音。
(カスタムボイスは1音)。

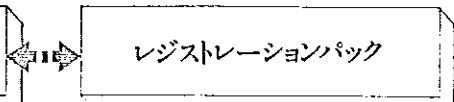
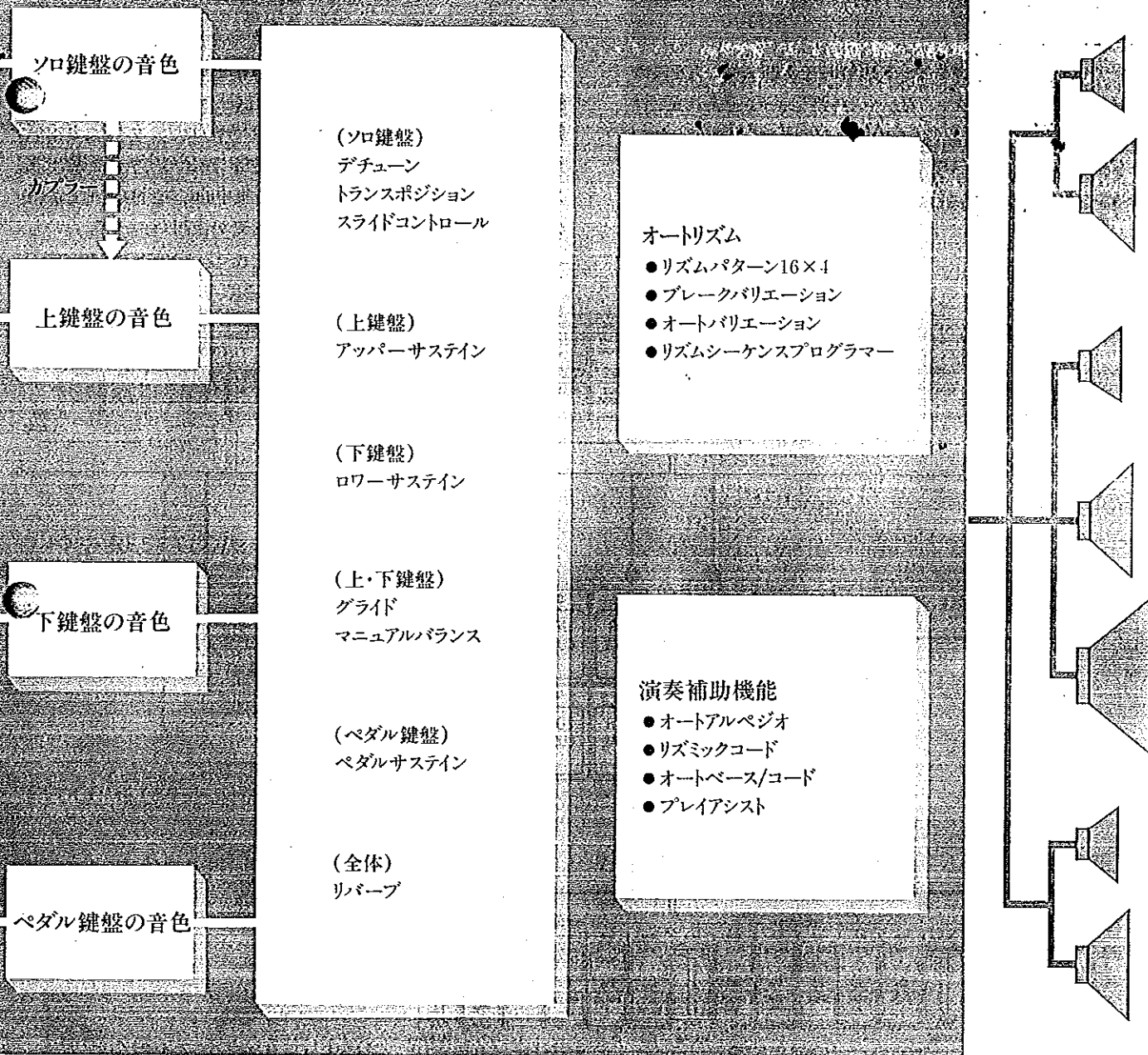
ペダル鍵盤……………1音。

音色を組み合わせ、各鍵盤の音色を決める。

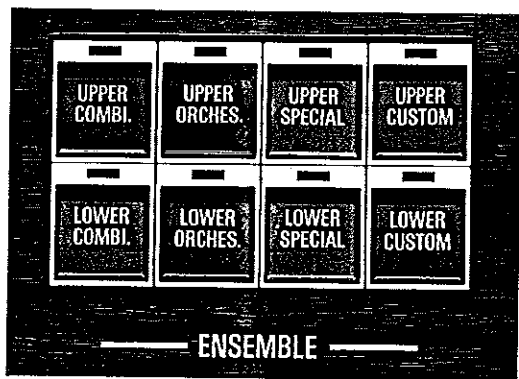
鍵盤ごとに効果などを加える。

必要に応じてリズム、演奏補助機能をセットする。

3チャンネルサウンドシステム。



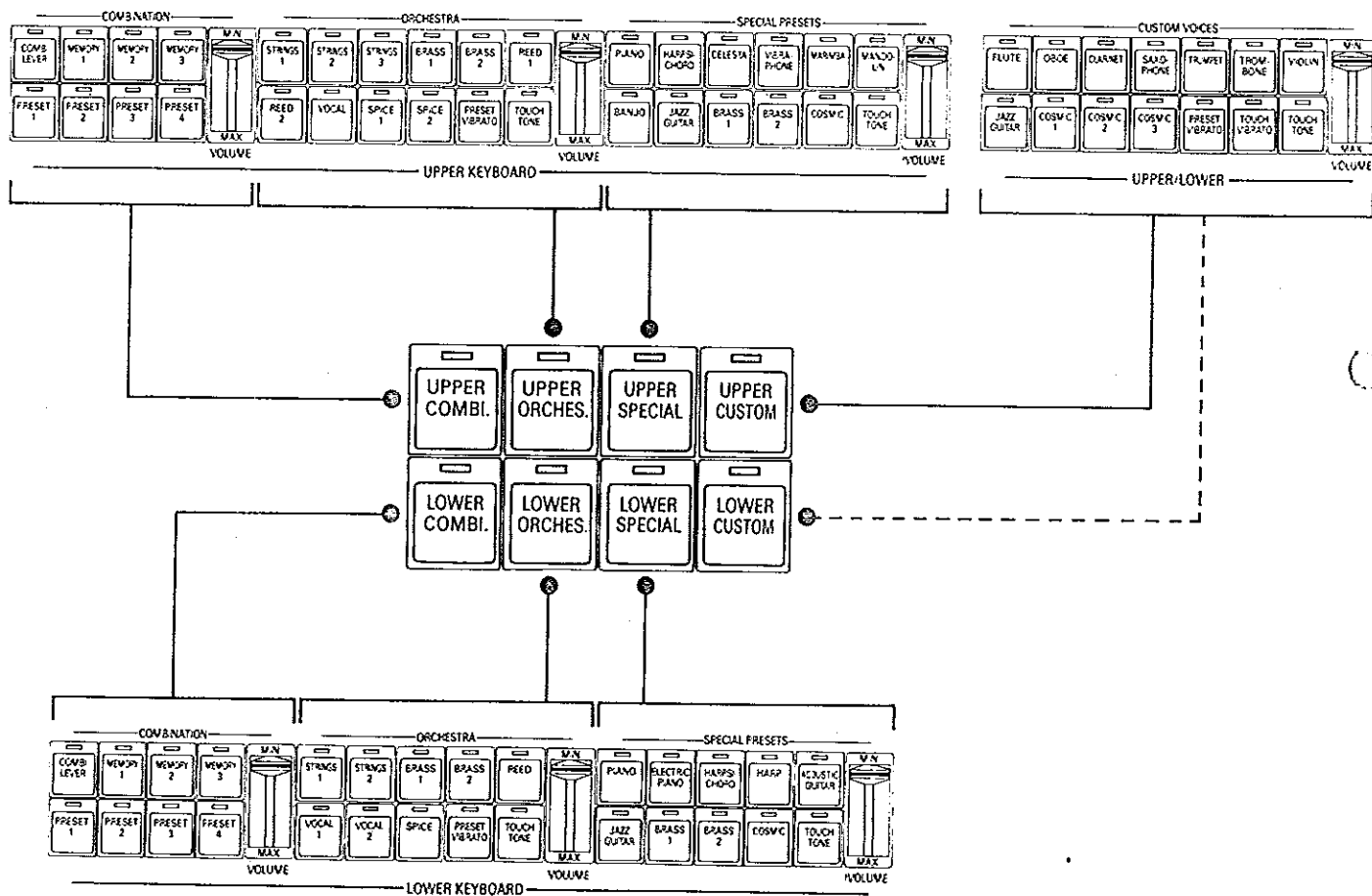
アンサンブルレセクション



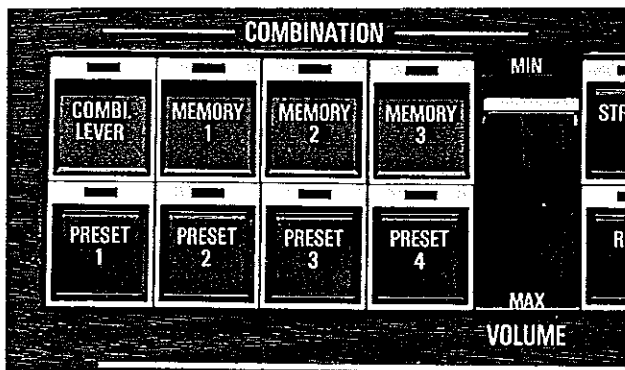
ENSEMBLE アンサンブル

アンサンブルは、上鍵盤の音色群と下鍵盤の音色群の使い方を決めるセクションです。8つのボタンのなかから必要なボタンを入れるだけで、音色群が呼びだされ、音色を自由に組み合わせることができます。キャンセルしたいときは、もう一度ボタンを押しください。(ただし、すべてのボタンをキャンセルすることはできません)

下の図に示したように、上段が上鍵盤の音色群、下段が下鍵盤の音色群に対応しており、それぞれの鍵盤で、ひとつから最高4つまで音色群を呼びだすことができます。なお、アッパー/ローカスタムボイスを使う場合は、上鍵盤に呼びだすか、下鍵盤に呼びだすかを選択します。このように、上鍵盤と下鍵盤の音色群が集中的にコントロールできますから、演奏中でもレジストレーションの変更が素早く行えます。



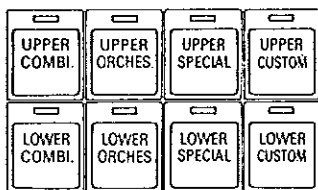
上鍵盤の音色群



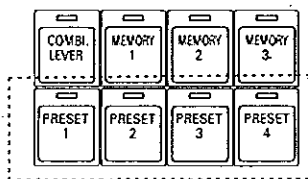
COMBINATION コンビネーション

コンビネーションは、さまざまなオルガンサウンドが得られる音色群です。8つのボタンのうち、上段の4つは、自分でセットした音色を取り出すボタンで、下段の4つは、あらかじめ決められている音色を取り出すボタンになっています。それではまず、下段のプリセットの音色を上鍵盤からだしてみましょう。

- ①アンサンブルセクションのUPPER COMBI.(アッパーコンビネーション)を入れて、音色群を呼び出します。



- ②4つのPRESET (プリセット) のボタンのうち、ひとつを選びます。



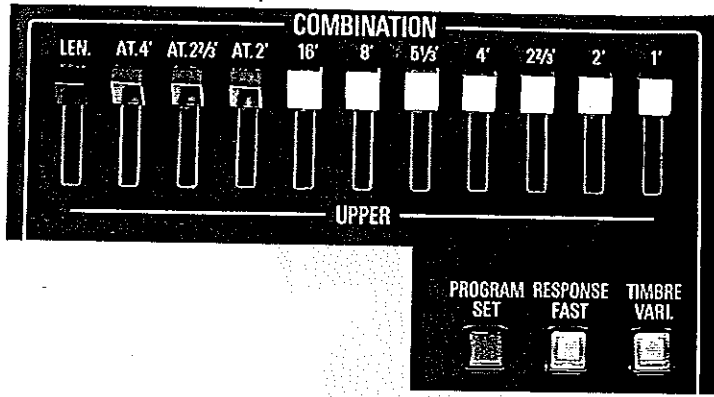
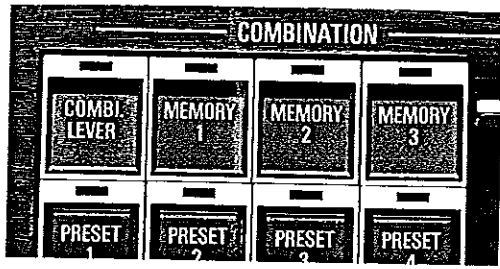
- ③VOLUME (ボリューム) のスライダーを下に下げます。



上側(MIN側)にセットすると音量は小さくなり、下側(MAX側)にスライドさせるほど大きくなります。

以上のようにセットして上鍵盤を弾くと②で選んだプリセット音色が得られます。

COMBI. LEVER (コンビネーションレバー)	このボタンを選ぶと、COMBINATION (コンビネーション) のレバーのうち、UPPER (アッパー) のレバーでセットしている音色が得られます。(次のページを参照してください。)
MEMORY 1・2・3 (メモリー1・2・3)	これらのボタンには、コンビネーションのアッパーのレバーでつくった音色をメモリーすることができ、必要に応じて取り出すことができます。(次のページを参照してください。)
PRESET 1 (プリセット1)	チャーチオルガン系のサウンド
PRESET 2 (プリセット2)	ジャズオルガン系のサウンド
PRESET 3 (プリセット3)	ジャズオルガン系のサウンド
PRESET 4 (プリセット4)	シアターオルガン系のサウンド

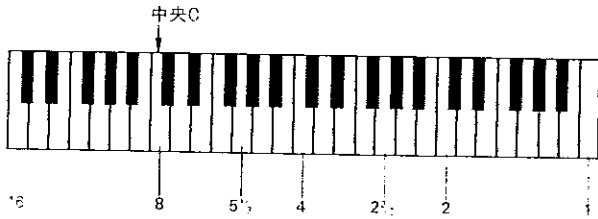


レバーによる音色の選択

COMBI. LEVER (コンビネーションレバー) のボタンを選んでいるときには、下鍵盤の左側のパネルにあるレバーでセットした音色が得られます。レバーは、上鍵盤用のUPPER (アッパー)、下鍵盤用のLOWER (ロー)、ペダル鍵盤用のPEDALS (ペダル) に分かれていて、アッパーには、コンビネーションレバーのほかにもアタックのレバーも用意されています。それぞれのレバーにはクリックストップが設けられていますから、個々の音量を細かくセットでき、微妙な音づくりが可能です。

コンビネーションレバー：任意のレバーを組み合わせでセットすることで、さまざまなオルガンサウンドが作りだせます。レバーの上に表示されている8' (8フィート) 4' (4フィート) などの数字は、パイプオルガンのパイプの長さ由来のもので、それぞれの音程を示しています。

中央Cをおさえたときに、それぞれのレバーで得られる音程)



アタックレバー・アタックレンジレバー：アタック音は、立ち上がり早く、かたい感じのする減衰音です。コンビネーションレバーと一緒にセットすると、歯切れのよいサウンドが作りだせます。左端のアタックレンジレバーは、アタック音の減衰時間をコントロールするもので、手前に引くほど、消えるまでの時間が長くなります。

RESPONSE FAST (レスポンス ファースト)

このボタンを入れると、コンビネーション音色の立ち上がり減衰が早くなり、歯切れのよい、かたい感じのサウンドが得られるようになります。なお、このレスポンスファースト効果は、コンビネーションレバーとともに、メモリーのボタンに記憶させておくことができます。

TIMBRE VARI. (ティンバーバリエーション)

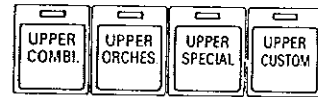
このボタンを入れると、コンビネーション音色がまろやかな感じに変化します。やわらかいサウンドを得たいときなどにお使いください。このティンバーバリエーション効果も、コンビネーションレバーとともに、メモリーのボタンに記憶させておくことができます。なお、この効果によって変化するのは、アッパーとローの16'、8'、4'の音色です。

★プリセット音色には、音色を選ぶと自動的にレスポンスファースト効果、ティンバーバリエーション効果のかかるものがあります。

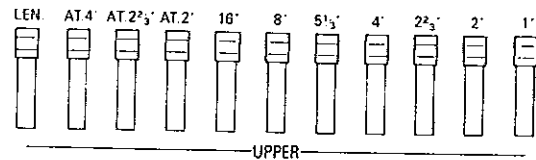
レバーの組み合わせをメモリーする機能

MEMORY 1・2・3 (メモリー1・2・3) のボタンには、コンビネーションレバー、アタックレバーの組み合わせを、あらかじめメモリーしておくことができます。したがって、演奏中でもレバーをセットしなおすことなく、思い通りの音色がワンタッチで取りだせます。

①アンサンブルセクションのUPPER COMBI. (アッパーコンビネーション) のボタンを入れます。

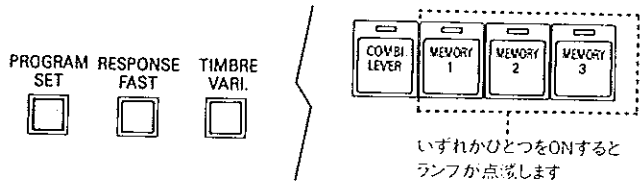


②COMBI.LEVER (コンビネーションレバー) のボタンを入れ、コンビネーションレバーおよびアタックレバーで、メモリーしたい組み合わせをセットします。



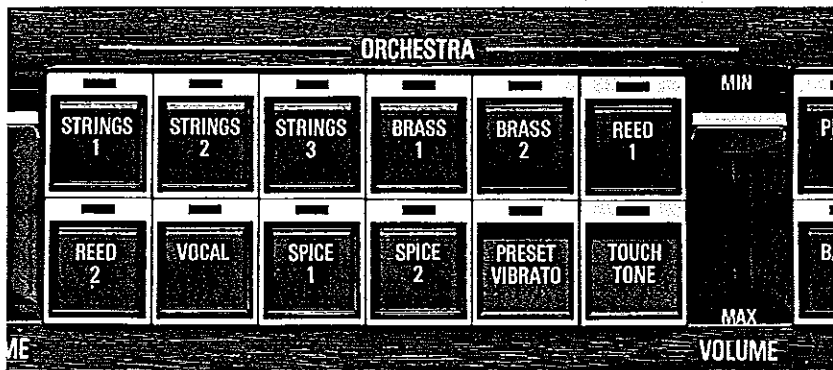
上鍵盤で音をだしながらレバーの組み合わせを決めてください。

③PROGRAM SET (プログラムセット) の赤いボタンを押しながら、3つのメモリーボタンのうちひとつを押します。



以上の操作をすると、押したメモリーボタンのインジケータランプが点滅し、そのボタンにメモリーされたことを示します。

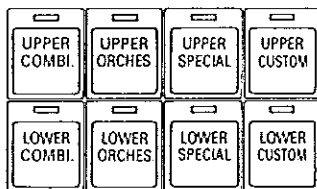
★いったんメモリーした情報は、電源を切っても消えることはありません。また、新しい組み合わせを同じボタンにメモリーすると、前にメモリーしていた情報は自動的に消えます。



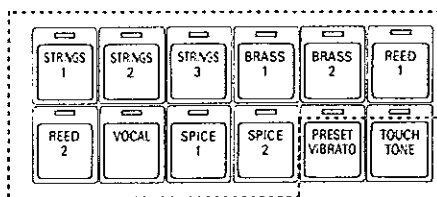
ORCHESTRA オーケストラ

オーケストラは、複数の楽器で合奏しているような、厚みのあるサウンドが得られる音色群です。主にストリングスやブラスなど、オーケストラで使われる楽器音が用意されており、ひとつひとつの音色には、それぞれにふさわしい効果が、あらかじめ組み込まれています。また、鍵盤タッチによって音量・音色を微妙にコントロールしたり、選んだ音色にビブラートを単独でかけたりすることもできます。それでは、実際に音をだして聴きくらべてみましょう。

① アンサンブルセクションのUPPER ORCHES.(アッパーオーケストラ)のボタンを入れて、音色群を呼び出します。



音色を選ぶ10のボタンのなかから、ひとつを選びます。



いずれかひとつをONする

③ VOLUME(ボリューム)のスライダーを下に下げます。

このようにセットして上鍵盤を弾くと、②で選んだ音色が得られます。

★オーケストラ音色には、音色を選ぶと、シンフォニック効果が自動的に入るものがあります。

◎ TOUCH TONE (タッチ トーン)



このボタンを入れると、鍵盤のタッチによって、音量と音色が微妙にコントロールできるようになります。オーケストラ音色では、イニシャルタッチコントロールと、アフタータッチコントロールの両方が可能です。

イニシャルタッチコントロールとは、鍵盤をたたくときの速さ・強さによって音量・音色をコントロールするもので、速く、強くたたくほど立ち上がりの音量が大きくなり、音色もさまざまに変化します。

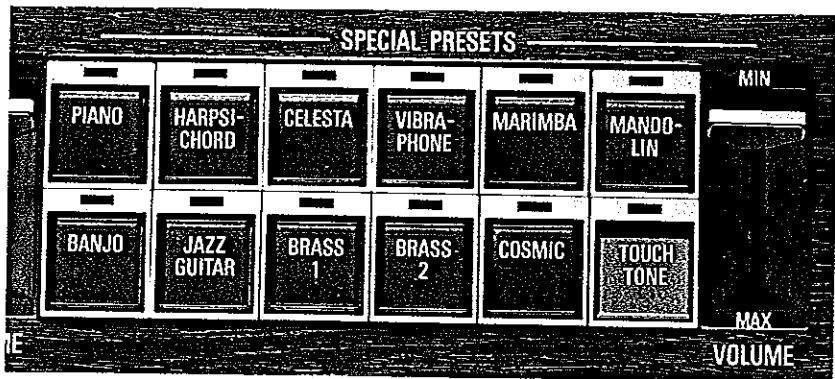
アフタータッチコントロールとは、鍵盤をおさえた後、さらに鍵盤をおさえることによって、音量・音色に変化をつけるもので、強くおさえるほど音量は大きくなり、音色は豊かさと厚みを増します。

なお、両方のタッチコントロールとも、音量・音色の変化する度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。また、演奏する音域によっても変化する度合は変わります。より表情豊かで、センシティブな演奏表現をお試しください。

◎ PRESET VIBRATO (プリセット ビブラート)



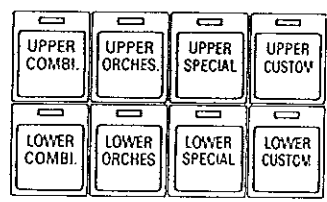
このボタンを入れると、そのとき選んでいるオーケストラ音色にビブラート効果がかかります。ビブラートのデプス(深さ)、スピード(速さ)、ディレイ(ビブラートがかかり始めるまでの遅れ時間)は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。また、デプス、スピード、ディレイを自分の好きなように変更することもできます。(16、17ページを参照してください。)



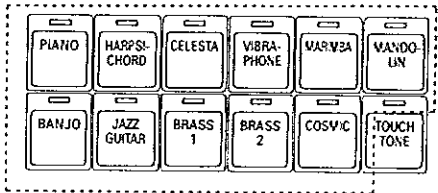
SPECIAL PRESETS スペシャルプリセット

スペシャルプリセットは、ピアノやビブラフォンなど、さまざまな楽器音が得られる音色群です。ピアノ、ハープシコードの自然な減衰や、マリンバ、マンドリンの歯切れのよいツピートなど、それぞれの楽器がもっている特徴をリアルに再現します。また、鍵盤のタッチによって、音量・音色を微妙にコントロールすることができます。それでは、実際に音をだしてみましょう。

①アンサンブルセクションのUPPER SPECIAL (アッパースペシャルプリセット) のボタンを入れて、音色群を呼び出します。



②音色を選ぶ11のボタンのなかから、ひとつを選びます。



いずれかひとつをONする

③VOLUME (ボリューム) のスライダーを下に下げます。

このようにセットして上鍵盤を弾くと、②で選んだ音色が得られます。

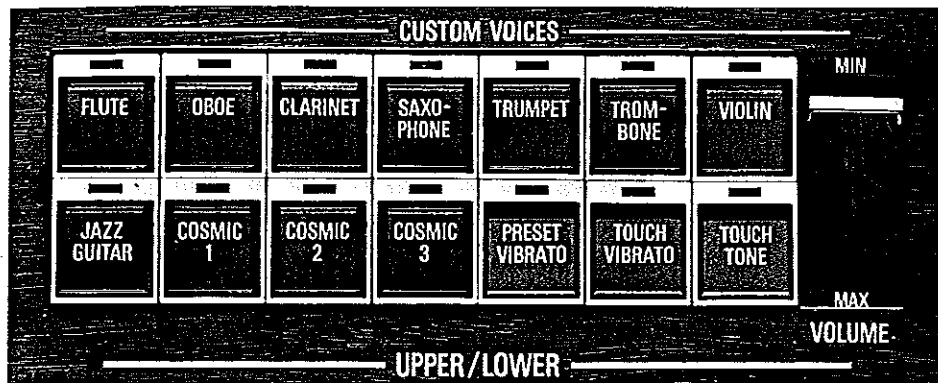
TOUCH TONE (タッチ トーン)



このボタンを入れると、鍵盤のタッチによって、音量と音色が微妙にコントロールできるようになります。スペシャルプリセット音色では、イニシャルタッチコントロールが可能です。これは、鍵盤をたたくときの速さ・強さによって音量・音色をコントロールするもので、速く、強くたたくほど立ち上がりの音量が大きくなり、音色もさまざまに変化します。

なお、音量・音色の変化する度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。また、演奏する音域によっても変化する度合は変わります。

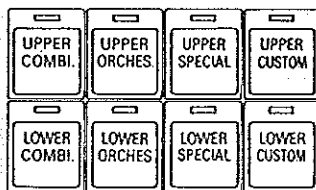
★MARIMBA (マリンバ) 音色を選んでいるとき、2つ以上の音を同時におさえると、ツインマレット効果が得られます。2音おさえると、高音と低音が交互にくり返され、3音以上おさえると、最高音1音と低音部が交互にくり返し発音されます。



CUSTOM VOICES カスタムボイス

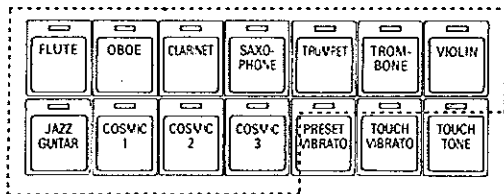
カスタムボイスは、さまざまな楽器音が単音で得られる音色群です。管楽器などに特有の自然な音の表情をもつため、大変リアルな響きが得られます。また、鍵盤タッチによって音量・音色、およびビブラートをコントロールしたり、ビブラートを単独でかけたりすることができます。それでは、実際に音をだしてみましょう。

①アンサンブルセクションのUPPER CUSTOM(アッパーカスタムボイス)のボタンを入れて、音色群を呼びだします。



アッパー/ローアカスタムボイスを呼び出す場合は、上鍵盤で使うか下鍵盤で使うかを選択します。両方の鍵盤で同時に呼び出すことはできません。

②音色を選ぶ11のボタンのなかから、ひとつを選びます。



いずれかひとつをONする

③VOLUME(ボリューム)のスライダを下に下げます。

このようにセットして上鍵盤を弾くと、②で選んだ音色が得られます。

★アッパー/ローアカスタムボイスは、同時に1音しか発音しません。他の音色群と組み合わせているときは、複数の音を同時におさえると、最高音1音のみが発音されます。また、他の音色群と組み合わせずに単独で使ったときは、一番後におさえた1音が優先的に発音されます。

★音色によっては、スライド効果(ホルタメント)などがあらかじめ組み込まれています。

TOUCH TONE (タッチ トーン)

このボタンを入れると、イニシャルタッチとアフタータッチによって、カスタムボイスの音量・音色が微妙にコントロールできます。イニシャルタッチコントロールは、鍵盤をたたくときの速さ・強さでコントロールするもので、速く、強くたたくほど立ち上がりの音量が大きくなり、音色もさまざまに変化します。

アフタータッチコントロールは、鍵盤をおさえた後、さらにおさえてコントロールするもので、強くおさえつければほど音量が大きくなり、音色は豊かさと厚みを増します。

なお、音量・音色の変化する度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされており、音域によっても変化する度合は変わります。

PRESET VIBRATO (プリセット ビブラート)

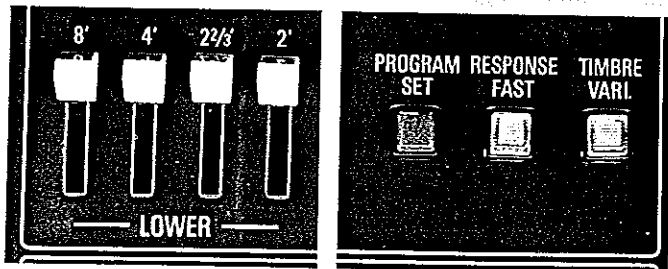
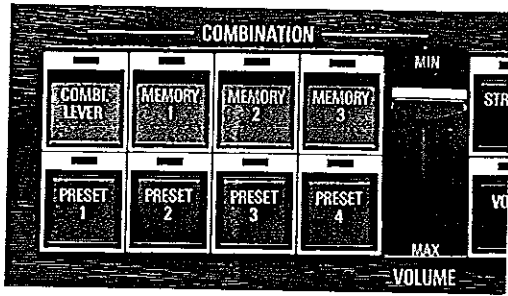
このボタンを入れると、そのとき選んでいるカスタムボイス音色にビブラート効果がかかります。ビブラートのデプス(深さ)、スピード(速さ)、レイ(ビブラートがかかりはじめるまでの遅れ時間)は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。また、デプス、スピード、レイを自分の好きなように変更することもできます。(16、17ページを参照してください。)

TOUCH VIBRATO (タッチ ビブラート)

このボタンを入れると、鍵盤のタッチでビブラートをコントロールできるようになります。これは、鍵盤をおさえた後、さらにおさえてつけるアフタータッチによってコントロールするもので、強くおさえつければほどビブラートのデプス(深さ)が深くなります。このとき、ビブラートのスピード(速さ)は一定です。

なお、タッチビブラートを使った場合は、プリセットビブラートが自動的にキャンセルされます。また、タッチによって変化させるデプスの度合を自分の好きなように変更することもできます。(16、17ページを参照してください。)

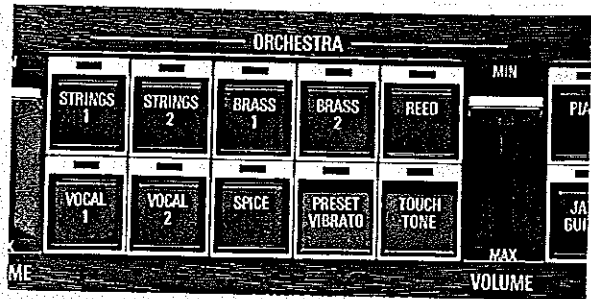
下鍵盤の音色群



COMBINATION コンビネーション

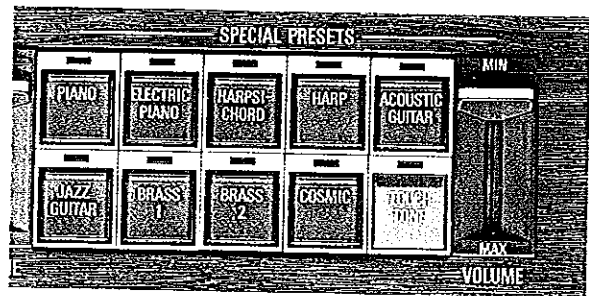
さまざまなオルガンサウンドが得られる音色群で、アンサンブルセクションのLOWER COMBI. (ロワーコンビネーション) のボタンによって呼びだします。8つのボタンの働きやPRESET (プリセット) の音色は、上鍵盤のコンビネーション音色に準じ、メモリーの操作や、RESPONSE FAST (レスポンスファースト)、TIMBRE VARI. (ティンバーバリエーション) の働きも同じです。(7, 8ページを参照してください。)

COMBI. LEVER (コンビネーションレバー)	コンビネーションレバーのうち、LOWER (ロワー) のレバーでセットしている音色が得られます。
MEMORY 1・2・3 (メモリー1・2・3)	ロワーのレバーでつくった音色をメモリーし、必要に応じて取り出すことができます。
PRESET 1 (プリセット1)	チャーチオルガン系のサウンド
PRESET 2 (プリセット2)	ジャズオルガン系のサウンド
PRESET 3 (プリセット3)	ジャズオルガン系のサウンド
PRESET 4 (プリセット4)	シアターオルガン系のサウンド



ORCHESTRA オーケストラ

ストリングスやブラスなど、複数の楽器で合奏しているようなサウンドが得られる音色群で、アンサンブルセクションのLOWER ORCHE. (ロワーオーケストラ) のボタンで呼びだします。操作方法やTOUCH TONE (タッチトーン)、PRESET VIBRATO (プリセットビブラートの働きは、上鍵盤のオーケストラ音色と同じです。(9ページを参照してください。)



SPECIAL PRESETS

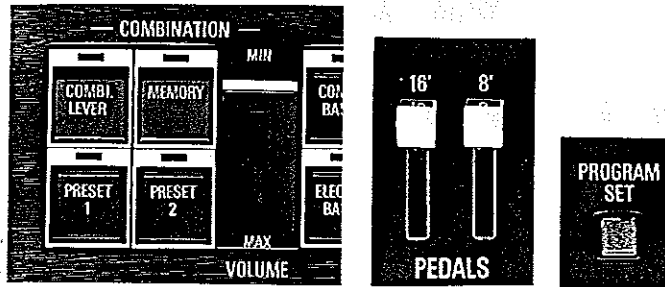
スペシャルプリセット

ピアノやハーフシコードなどの楽器音がプリセットされている音色群で、アンサンブルセクションのLOWER SPECIAL (ロワースペシャルプリセット) のボタンによって呼びだします。操作方法やTOUCH TONE (タッチトーン) の働きは、上鍵盤のスペシャルプリセット音色と同じです。(10ページを参照してください。)

CUSTOM VOICES カスタムボイス

アンサンブルセクションのLOWER CUSTOM (ロワーカスタムボイス) のボタンを入れると、アッパー/ロワーカスタムボイス音色が下鍵盤で得られます。なお、下鍵盤で呼びだしているときは、上鍵盤で呼びだすことはできません。(11ページを参照してください。)

ペダル鍵盤の音色群

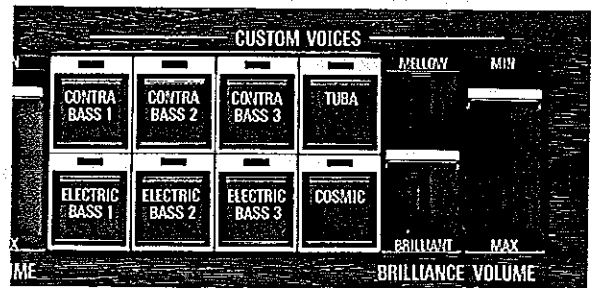


COMBINATION コンビネーション

オルガン系のベース音が得られる音色群です。上・下鍵盤のコンビネーション音色の操作とちがひ、アンサンブルセクションのボタンを入れる必要はなく、音色セレクトボタンとボリュームスライダーの操作だけで音をだすことができます。4つのボタンの働きは、上鍵盤のコンビネーション音色に準じており、メモリーの操作も同じです。(7, 8 ページを参照してください。)

なお、次に説明するペダルカスタムボイス音色と組み合わせることができますが、コンビネーション音色を単独で使いたい場合は、カスタムボイス音色のボリュームをMIN(最小)にセットしてください。

COMBI. LEVER (コンビネーションレバー)	コンビネーションレバーのうち、PEDALS (ペダル) のレバーでセットしている音色が得られます。
MEMORY (メモリー)	ペダルのレバーでつくった音色をメモリーし、必要に応じて取りだすことができます。
PRESET 1 (プリセット1)	パイプオルガン系の音色
PRESET 2 (プリセット2)	ジャズオルガン系の音色



CUSTOM VOICES カスタムボイス

コントラバスやエレクトリックベースなど、低音楽器の音色がプリセットされている音色群です。音色セレクトボタンをひとつ選び、ボリュームスライダーを操作するだけで音をだすことができます。

なお、ペダル鍵盤のコンビネーション音色と組み合わせることができますが、カスタムボイス音色を単独で使いたい場合は、コンビネーション音色のボリュームをMIN(最小)にセットしてください。

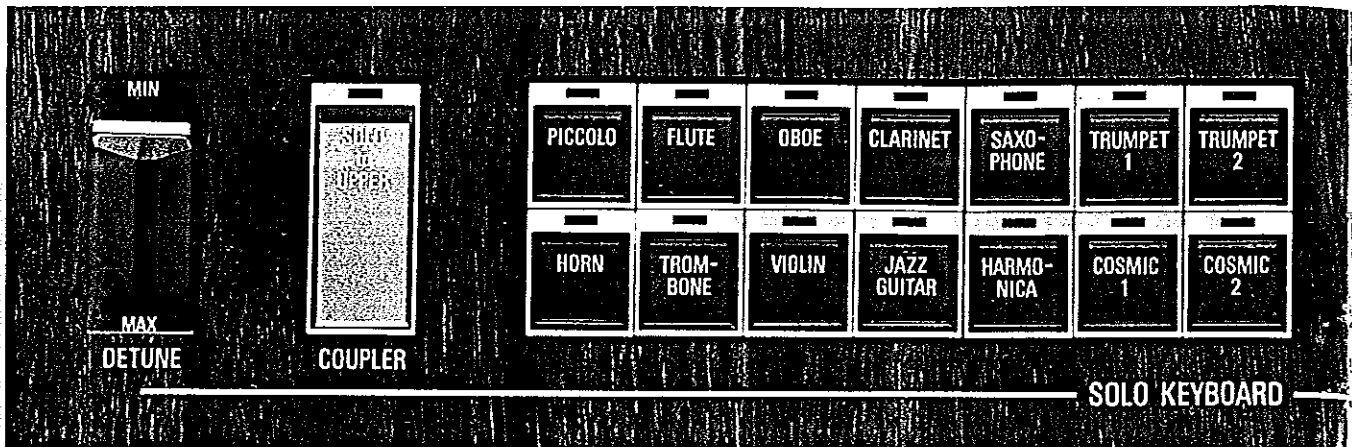
BRILLIANCE (ブリリアンス)

音色の感じをコントロールするスライダーです。中央がノーマルな状態で、MELLOW (メロウ) 側にスライドさせるほどソフトな感じになり、BRILLIANT (ブリリアント) 側にスライドさせるほど輝くような感じになります。お好みに応じてセットしてください。

★ペダルカスタムボイス音色には、あらかじめプリセットビブラートが組み込まれている音色があります。また、自分の好きなようにビブラートのかかり方をセットすることができます。(16, 17ページを参照してください。)

V

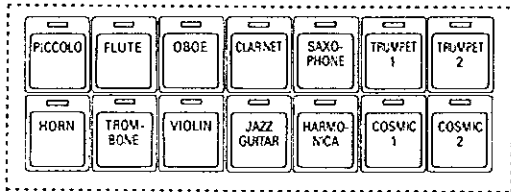
ソロ鍵盤の音色と効果(FS-70・FX-3のみ)



SOLO ソロ音色

ソロ鍵盤からは、リアルで生き生きとした、音質レベルの高い楽器音が得られます。また、タッチトーンなど、専用の各種エフェクトやコントロール類を備えていますから、より変化に富んだ表現ができます。さらに、上鍵盤に移してアンサンブルさせることも可能です。それでは、実際に音をだしてみましょう。

①音色を選ぶ14のボタンのなかから、ひとつを選びます。



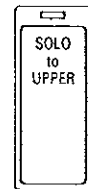
いずれかひとつを選ぶ

②VOLUME (ボリューム)のスライダーを手前に引きます。

このようにセットしてソロ鍵盤を弾くと、①で選んだ音色が得られます。

★ソロ音色は単音で発音されます。同時に複数の音をおさえた場合は、一番後でおさえた1音が優先的に発音します。また、COUPLER (カプラー)のボタンを使って上鍵盤に移し、上鍵盤の音色群と組み合わせた場合は、最高音1音が優先的に発音します。(ただし、カスタムボイスのみと組み合わせた場合は、後でおさえた1音が優先します。)

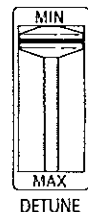
COUPLER SOLO to UPPER (カプラー ソロトウアー アッパー)



COUPLER

このボタンを入れると、ソロ音色が上鍵盤に移り、上鍵盤の音色群と組み合わせることが出来ます。このとき、ソロ音色が得られる上鍵盤の音域は、ソロ鍵盤と同じ音域(高音部3オクターブ)になります。また、カプラーのボタンを入れて上鍵盤に移しているときでも、ソロ鍵盤を弾けばソロ音色をだすことができます。ただし、ソロ鍵盤と上鍵盤を同時におさえた場合は、ソロ鍵盤が優先します。

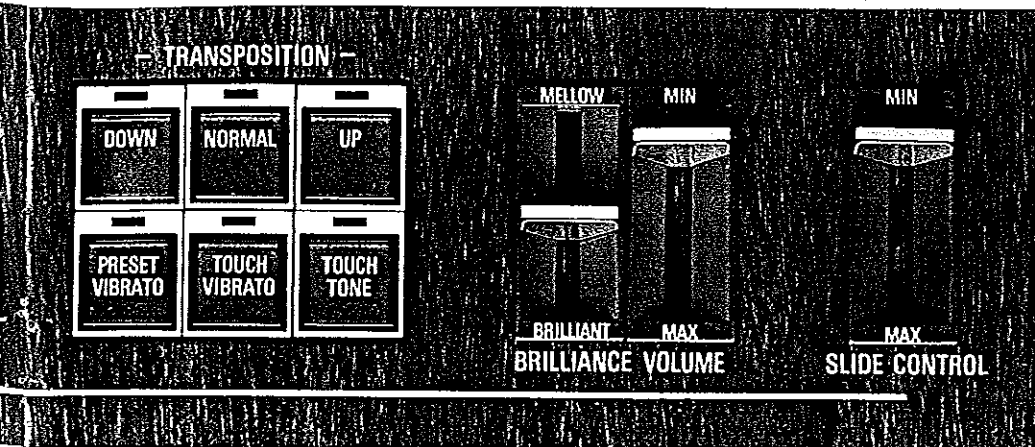
DETUNE (デチューン)



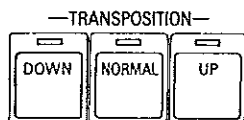
DETUNE

ソロ音色の音程を微妙にコントロールするスライダーです。一番奥のMIN (最小)の位置がシールドな音程で、MAX (最大)側にスライドさせるほど音程が高くなります。

他の鍵盤の音より、少し音程を高くすることによって、立体的な効果を生み出すことができますから、お好みに応じてセットしてください。



TRANSPOSITION (トランスポジション)



これらのボタンを使えば、ソロ音色の音程をオクターブの単位で、上下に切り換えることができます。NORMAL(ノーマル)のボタンが入っていると通常の音程で、DOWN(ダウン)のボタンを入れると1オクターブ低くなり、UP(アップ)のボタンを入れると1オクターブ高くなります。曲想やそれぞれの音色に応じて使い分けてください。

TOUCH TONE (タッチ トーン)



このボタンを入れると、イニシャルタッチとアフタータッチによって、ソロ音色の音量・音色が微妙にコントロールできます。

イニシャルタッチコントロールは、鍵盤をたたくときの速さ・強さでコントロールするもので、速く、強くたたくほど立ち上がりの音量が大きくなり、音色もさまざまに変化します。

アフタータッチコントロールは、鍵盤をおさえた後、さらにおさえつけてコントロールするもので、強くおさえつけるほど音量が大きくなり、音色は豊かさと厚みを増します。

なお、音量・音色の変化する度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされており、音域によっても変化する度合は変わります。

PRESET VIBRATO (プリセット ビブラート)



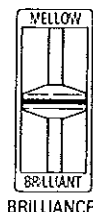
このボタンを入れると、そのとき選んでいるソロ音色にビブラート効果がかかります。ビブラートのデプス(深さ)、スピード(速さ)、ディレイ(ビブラートがかかりはじめるまでの遅れ時間)は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。また、デプス、スピード、ディレイを自分の好きなように変更することもできます。(16、17ページを参照してください。)

TOUCH VIBRATO (タッチ ビブラート)



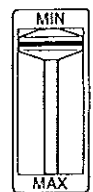
プリセットビブラートのかわりに、このボタンを入れると、鍵盤のタッチでビブラートをコントロールできるようになります。これは、鍵盤をおさえた後、さらにおさえつけるアフタータッチによってコントロールするもので、強くおさえつけるほどビブラートのデプス(深さ)が深くなります。このとき、ビブラートのスピード(速さ)は一定です。また、タッチによって変化させるデプスの度合は、自分の好きなように変更することもできます。(16、17ページを参照してください。)

BRILLIANCE (ブリリアンス)



音色の感じが微妙にコントロールできるスライダーです。中央がノーマルな状態で、MELLOW(メロウ)側にスライドさせるほどソフトな感じになり、BRILLIANT(ブリリアント)側にスライドさせるほど輝くような感じになります。お好みに応じてセットしてください。

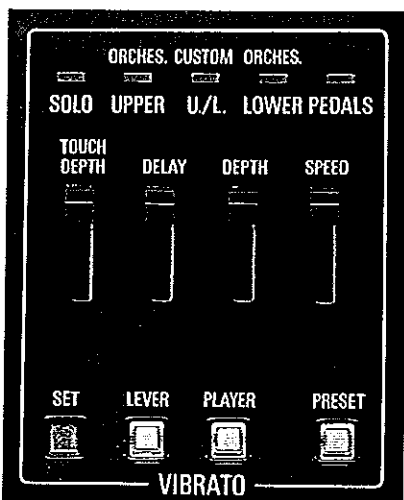
SLIDE CONTROL (スライド コントロール)



SLIDE CONTROL

このスライダーを使うと、ある音から次の音へなめらかに音程が移行するポルタメント効果が得られます。スライダーがMIN(最小)にセットされていると効果はかかりませんが、MAX(最大)側へスライドさせるほど、音程の移行する時間が長くなります。なお、この効果を加えるときは、鍵盤をレガートに弾いてください。

VI 効果・コントロール



(写真はFS-70です。)

VIBRATO ビブラート

ビブラートには、それぞれの音色にふさわしいようにセットされているプリセットビブラートと、それを自分の好きなように変更するプレイヤービブラートの2種類があります。

プリセットビブラート

上・下鍵盤のオーケストラ音色、カスタムボイス音色、およびソロ音色では、PRESET VIBRATO (プリセットビブラート) のボタンを入れることで、あらかじめプリセットされているビブラートが個々の音色に対してかかります。(9、11、15ページを参照してください。) このプリセットビブラートは、下鍵盤の右のパネルにあるPRESET (プリセット) のボタンを入れているときに得られます。



また、カスタムボイス音色とソロ音色では、タッチビブラートも得られますが、PRESET (プリセット) のボタンを入れているときには、鍵盤タッチによってコントロールできるビブラートの深さは、プリセットされている深さになります。(11、15ページを参照してください。)

プレイヤービブラート

プリセットビブラートとタッチビブラートのかかり方は、自分の好きなように変更し、メモリーさせておくことができます。ビブラートの変更とメモリーは、次に説明する操作によって行いますが、まず、プリセットビブラートをすべて記憶させたうえで、変更したい音色だけ呼びだしてください。変更後のビブラートは、PLAYER (プレイヤー) のボタンを入れることで、いつでも得られます。



① 音色群ごとのプリセット

ビブラートのかかり方は、上・下鍵盤のオーケストラ音色、カスタムボイス音色、およびソロ音色 (FS-70・FX-3のみ) のひとつひとつについて、別々に変更し、メモリーすることができます。また、ペダル鍵盤のカスタムボイス音色も、ビブラートをメモリーすることができます。

① SET (セット) のボタンを押しながら、PRESET (プリセット) のボタンを押します。



すると、PLAYER (プレイヤー) のボタンが点滅し、プリセットビブラートがすべて一度にメモリーされます。この操作をしておけば、ビブラートを変更しなかった音色についても、PLAYER (プレイヤー) のボタンを入れたままでプリセットビブラートが得られるようになります。したがって、プリセットビブラートをかけたい音色から、変更したプレイヤービブラートをかけたい音色に切りかえる場合でも、PRESET (プリセット) のボタンをプレイヤー (プレイヤー) のボタンをいちいち押し直す必要がありません。

② ビブラートを変更したい音色の属している音色群で、PRESET VIBRATO (プリセットビブラート) のボタンを入れます。



③ LEVER (レバー) のボタンを押します。



すると、LEVER (レバー) のボタンが点滅をはじめます。これで、ビブラートを変更したい音色を呼びだすことができるようになります。



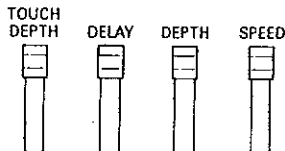
④ ビブラートを変更したい音色のボタンを押します。

ボタンのランプがすでに点灯している場合でも、あらためてボタンを押してください。すると、押した音色が属している音色群のインジケータランプが点灯し、ビブラートの変更とメモリーが可能な状態になったことを示します。なお、このときレバーボタンの点滅は点灯に変わります。

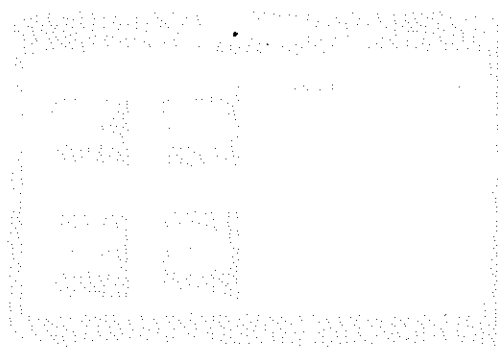
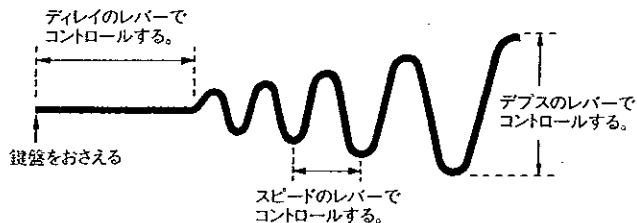


(図はFS-70です。)

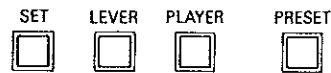
⑤ ビブラートのかかり方をレバーでセットします。



実際に音をだしながら、ビブラートのかかり方を決めてください。まず、DEPTH (デプス) のレバーで、ビブラートの深さを決めます。レバーを手前に引くほど音程の上下する幅が大きくなります。同様にして、SPEED (スピード) のレバーで、ビブラートの速さをコントロールし、DELAY (ディレイ) のレバーで、鍵盤をおさえてからビブラートがかかりはじめるまでの時間をコントロールします。



⑥ SET (セット) のボタンを押しながら、LEVER (レバー) のボタンを押します。

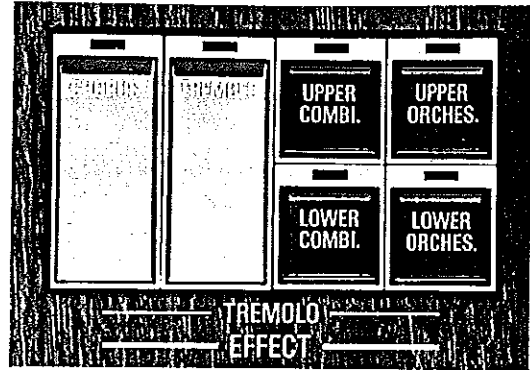
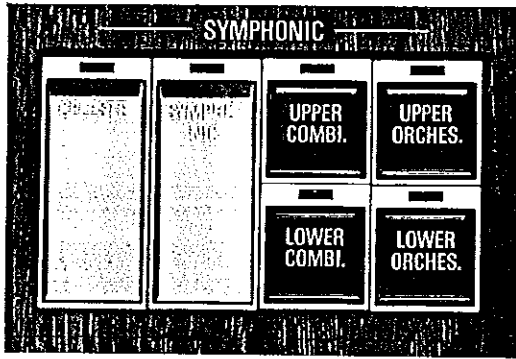


すると、PLAYER (プレイヤー) のボタンが点滅し、変更したビブラートがメモリーされたことを示します。ボタンの点滅は、すぐに点灯に変わり、ビブラートを変更した音色には、プリセットビブラートのかわりにプレイヤービブラートがかかるようになります。

★タッチビブラートのデプスの度合を変更する場合は、TOUCH VIBRATO (タッチビブラート) のボタンを入れ、TOUCH DEPTH (タッチデプス) のレバーを使います。レバーを手前に引くほど、鍵盤のタッチによってコントロールできるビブラートの深さの度合が大きくなります。また、SPEED (スピード) のレバーによって、タッチビブラートの速さも変えることができます。

★ペダル鍵盤のカスタムボイス音色にかけるビブラートも同様にメモリーすることができます。その場合、②の操作は不要です。なお、ペダル鍵盤をおさえ続けたままでレバーを動かしてもビブラートは変化しませんので、レバーでビブラートのかかり方をセットするときは、そのつどペダル鍵盤をおさえ直してください。

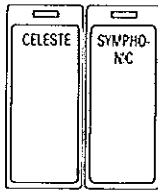
★いったんメモリーしたビブラートの情報は、電源を切っても消えることはありません。また、同じ音色に新しいビブラートの情報をメモリーすると、それまで入っていた情報は、自動的にキャンセルされます。



SYMPHONIC シンフォニック

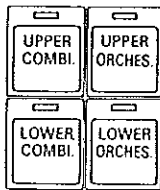
数多くの楽器で合奏しているような多重感をもたせ、音に豊かな広がりを与える効果です。シンフォニックとセレステの2種類の効果があり、上・下鍵盤のコンビネーション音色とオーケストラ音色にかけることができます。

- ①SYMPHONIC (シンフォニック) のボタンとCELESTE (セレステ) のボタンのどちらかを選びます。



シンフォニック：豊かなひろがりのある効果が得られます。
セレステ：シンフォニックよりゆったりとしたかかり方の効果が得られます。

- ②効果をかける音色群のボタンを入れます。



左側が上・下鍵盤のコンビネーション音色、右側が上・下鍵盤のオーケストラ音色のボタンになっており、いくつでも同時にセットすることができます。

以上のようにセットすると、②で選んだ音色群の音に、①で選んだ効果がかかるようになります。

★音色によっては、音色を選んだだけで、シンフォニック効果が自動的にかかるようになるものがあります。あえて効果をかけたくない場合は、ONになっている音色群のボタンを押せばキャンセルできます。

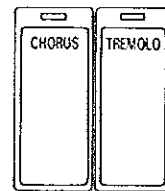
★同じ音色群に、シンフォニック効果(シンフォニック、セレステ)とトレモロ効果(トレモロ、コーラス)を同時にかけることはできません。

★シンフォニックとセレステのボタンは、必ずどちらかがONになっています。

TREMLOLO トレモロ

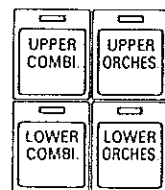
音にうねりをもたせ、うるおいと広がりのある響きにする効果です。トレモロとコーラスの2種類の効果があり、上・下鍵盤のコンビネーション音色とオーケストラ音色にかけることができます。

- ①TREMLOLO (トレモロ) のボタンとCHORUS (コーラス) のボタンのどちらかを選びます。



トレモロ：音がうねり、独特の広がり感が得られます。
コーラス：トレモロよりゆっくりとうねり、回転しているような感じが得られます。

- ②効果をかける音色群のボタンを入れます。



左側が上・下鍵盤のコンビネーション音色、右側が上・下鍵盤のオーケストラ音色のボタンになっており、いくつでも同時にセットすることができます。

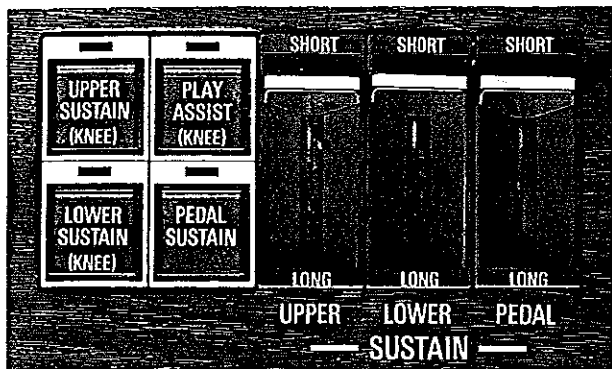
★同じ音色群に対して、トレモロ効果(トレモロ、コーラス)とシンフォニック効果(シンフォニック、セレステ)を同時にかけることはできません。例えば、トレモロ効果をコンビネーション音色にかけ、シンフォニック効果をオーケストラ音色にかけるといように、組み合わせさせてお使いください。

TREMLOLO SPEED (トレモロ スピード)

TREMLOLO (トレモロ) のボタンを選んでいるときは、上鍵盤と下鍵盤の間のパネルにあるつまみでうねりの速さを微妙にコントロールすることができます。中央の位置が普通の状態ですが、右に回すとうねりが速くなり、左に回すとうねりがゆるやかになります。



TREMLOLO SPEED.



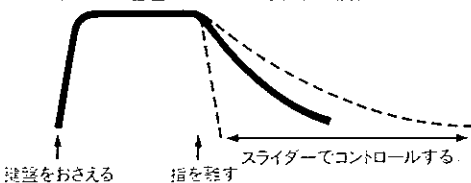
SUSTAIN サステイン

鍵盤から指や足を離れた後、音に余韻をもたせ、自然に減衰させる効果です。3つのボタンと3つのスライダーの操作によって、3つの鍵盤の音に、それぞれ効果をかけることができます。また、上・下鍵盤のサステインは、ニーレバーによってコントロールすることができます。

①UPPER SUSTAIN(アッパーサステイン)、LOWER SUSTAIN(ロワーサステイン)、PEDAL SUSTAIN(ペダルサステイン)の3つのボタンで、どの鍵盤の音にサステインをかけるかを決めます。2つまたは3つのボタンを同時にセットすることもできます。なお、サステインがかかるのは、上・下鍵盤のコンビネーション音色、オーケストラ音色、スペシャルプリセット音色、およびペダル鍵盤のコンビネーション音色とカスタムボイス音色です。アッパー/ロワーカスタムボイス音色とソロ音色にはかかりません。

②UPPER(アッパー)、LOWER(ロワー)、PEDAL(ペダル)の3つのスライダーで、サステインの長さをコントロールします。

コンビネーション音色にサステインをかけた場合

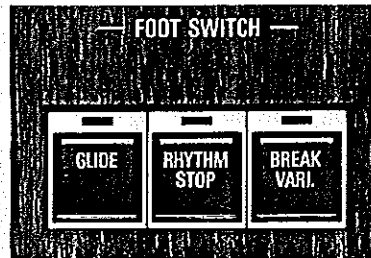
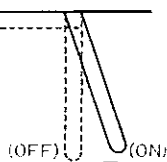


一番上のSHORT(ショート)の位置にセットされているとサステインはかからず、LONG(ロング)側にスライドさせるとサステインが長くなります。

★音色によっては、スライダーをショート側にセットしたとき、サステイン効果がOFFのときより、余韻が短くなるものがあります。

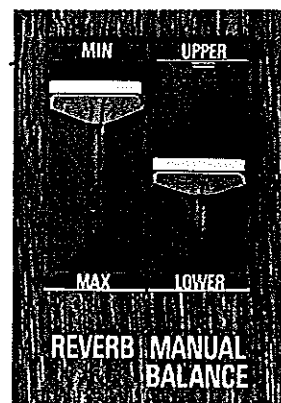
ニーレバーコントロール

上・下鍵盤のサステインは、ニーレバーを使うことで、演奏中でも任意にコントロールすることができます。まず、サステインのボタンとスライダーをセットして、ニーレバーを真下に立てておきます。演奏中にサステインをかけたいところへきたら、ニーレバーを右ひざで右に押しください。押しつけている間だけサステインがかかります。



GLIDE グライド

エクスプレッションペダルの左奥にあるフットスイッチを操作することで、上・下鍵盤の音程を、全体に約半音さげる効果です。GLIDE(グライド)のボタンを入れ、鍵盤をおさえたまま、フットスイッチを左に押しこむことで効果がかかります。フットスイッチを押しつけている間は、音程が約半音さがり、フットスイッチを離すと、音程はゆっくりともにもどります。



REVERB リバーブ

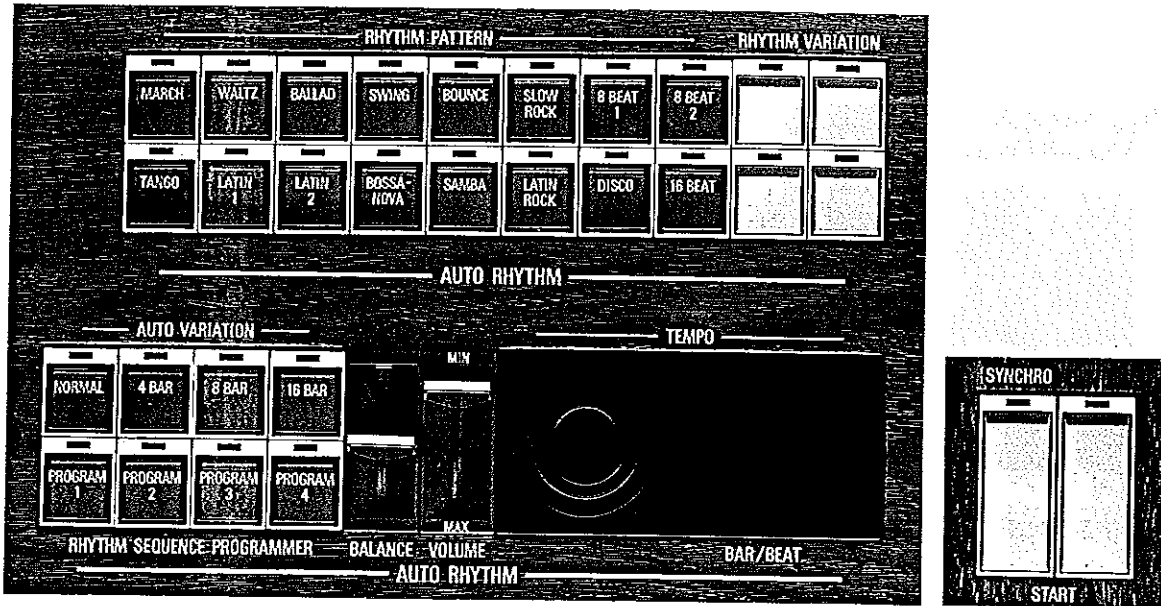
音に美しい残響をつけ、大きなホールで演奏しているような広がりのある響きにする効果です。この効果は、すべての鍵盤の音にかかり、スライダーをMAX(最大)側にスライドさせるほど、長い残響が得られます。

MANUAL BALANCE

マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量バランスをコントロールするスライダーです。UPPER(アッパー)側にセットすると下鍵盤の音量が小さくなり、LOWER(ロワー)側にセットすると上鍵盤の音量が小さくなります。

リズムセクション



RHYTHM PATTERN リズムパターン

オートリズムでは、FWM音源方式の導入によって、実際の打楽器音にきわめて近い、リアルなリズム音が可能です。リズムパターンは16種類あり、それぞれに4つずつのバリエーションパターンが用意されています。それでは実際にリズム音をだしてみましょう。

- ① 16のRHYTHM PATTERN(リズムパターン)と、4つのRHYTHM VARIATION(リズムバリエーション)のボタンのなかから、それぞれひとつずつ選びます。

16のリズムパターンに対して、それぞれ4つのバリエーションがありますから、全部で64種類のリズムパターンが選べます。

- ② VOLUME(ボリューム)のスライダーを下に下げます。
③ START(スタート)のボタンを押します。

以上の操作をすれば、①で選んだリズムがでてきます。他のリズムパターンに変えて聴き比べてください。

◎START(スタート)

SYNCHRO START(シンクロススタート)

右側のSTART(スタート)ボタンを入れると、リズムが第1拍目からスタートし、ボタンを切るとリズムはストップします。

STARTのかわりに、SYNCHRO START(シンクロススタート)ボタンを入れると、下鍵盤、またはペダル鍵盤を弾くと同時に、リズムを第1拍目からスタートさせることができます。ボタンを切るとリズムはストップします。

◎TEMPO(テンポ)

リズムの速さをコントロールするつまみで、右に回すと速くなり、左に回すとおそくなりますが、セットしたテンポは、デジタルディスプレイに数字で表示されます。

★デジタルディスプレイのドにあるインジケータランプは、セットしたテンポに合わせて点灯します。リズムがスタートしているときは、リズムの小節の1拍目ごとに点灯し、シンクロススタートを入れてから下鍵盤またはペダル鍵盤をおさえるまでは、1分音符のタイミングで点灯します。

RHYTHM VARIATION リズムバリエーション

◎BALANCE(バランス)

リズム音を構成している打楽器音のバランスをコントロールするスライダーです。中央の位置が普通の状態、下にスライドさせると、リズムをキープしているメインの打楽器音が強調され、上にスライドさせると、それ以外の打楽器音が強調されます。

◎デジタルディスプレイ

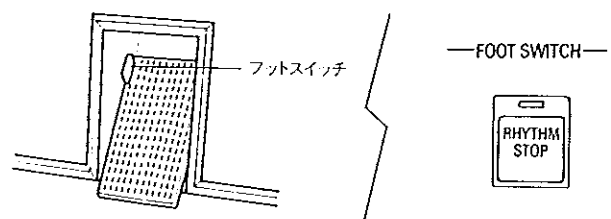
デジタルディスプレイでは、リズムセクションの使い方によって、リズムのテンポなど3種類の表示が得られます。

テンポ表示：リズムをスタートさせる前は、1分間に打つ1分音符の数で、リズムのテンポが表示されます。また、リズムをスタートさせた後にテンポを変えると、変更後のテンポが、バー/ビート表示に割り込んで、少しの間だけ表示されます。

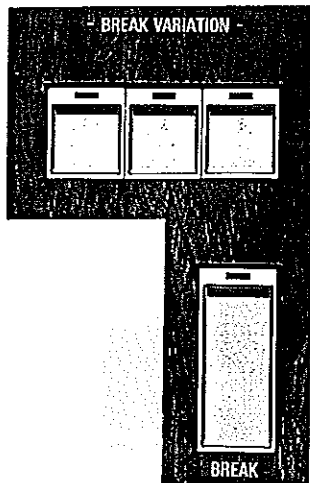
バー/ビート表示：リズムをスタートさせると、スタートしてからの小節数と、小節内の拍数が表示されます。

バー表示：リズムシーケンスプログラマーによって、リズムをメモリーしているときは、小節数だけの表示になります。

◎RHYTHM STOP(リズムストップ)



エクспRESSIONペダルの左奥にあるフットスイッチを使えば、スタートボタンを押さなくても、リズムをストップさせることができます。まず、RHYTHM STOP(リズムストップ)のボタンを入れてから、リズムをスタートさせてください。リズムを止めたいところで、フットスイッチを左に押し、リズムはストップします。フットスイッチをもう一度押せば、リズムは再度スタートします。



BREAK VARIATION

ブレイクバリエーション

リズムをスタートさせているとき、一時的にリズムフィルインのパターンに切り換える機能です。フレーズの切れ目などに使えば、リズムにアクセントが付き、変化に富んだ演奏ができます。また、イントロとして使うこともできます。それでは、実際に音をだしてみましよう。

- ①リズムパターンを選び、リズムをスタートさせます。
- ②3つのBREAK VARIATION(ブレイクバリエーション)のボタンのなかから、ひとつを選びます。
16のリズムパターンによって、1・2・3のパターンはそれぞれ異なります。したがって、ブレイクバリエーションのパターンは、全部で48種類あります。
- ③必要な時点にきたら、BREAK(ブレイク)のボタンを押します。
ボタンを押した瞬間から、②で選んだブレイクバリエーションのパターンに切り換わり、その小節の終わりまで続きます。次の小節からは、もとのリズムパターンにもどります。2小節以上にわたってブレイクバリエーションをだしたいときは、BREAK(ブレイク)のボタンを押し続けてください。

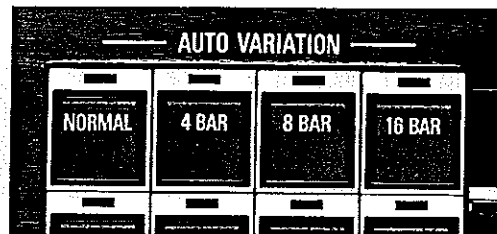
フットスイッチによるコントロール



フットスイッチの操作によってもブレイクバリエーションは、コントロールすることができます。フットスイッチのセレクトボタンのうち、BREAK VARI.(ブレイクバリエーション)のボタンを入れてから、リズムをスタートさせてください。演奏の途中でフットスイッチを左に押しすと、パネル面のBREAK(ブレイク)のボタンを押さなくても、ブレイクバリエーションが得られます。

イントロのだし方

ブレイクバリエーションでは、イントロをだすこともできます。まず、リズムパターンとブレイクバリエーションのパターンを選び、BREAK(ブレイク)のボタンを押してから、START(スタート)のボタンでリズムをスタートさせてください。リズムがスタートする前に、選んだブレイクバリエーションのパターンが、イントロとして1小節の間だけ得られます。



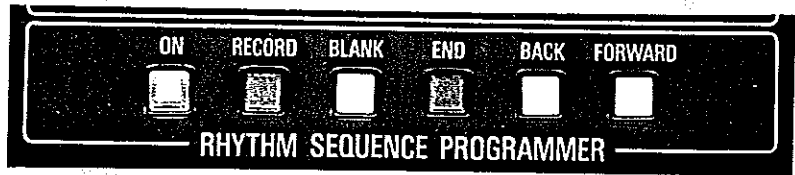
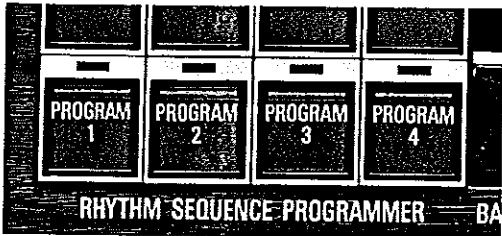
AUTO VARIATION

オートバリエーション

フレーズの切れ目で、リズムフィルインのパターンに自動的に切り換える機能です。リズムに一定の変化をつけたいときなどに便利です。

- ①リズムパターンとブレイクバリエーションのパターンを選びます。
- ②4BAR(4バー)、8BAR(8バー)、16BAR(16バー)の3つのボタンのなかから、ひとつを選びます。
これらのボタンは、リズムフィルインのパターンを、何小節目ごとに切り換えるかを選ぶものです。4バーは4小節目ごとに、8バーは8小節目ごとに、16バーは16小節目ごとに、それぞれ自動的に切り換わります。
- ③リズムをスタートさせます。
すると、①で選んだブレイクバリエーションのパターンが、②で選んだ小節ごとに、1小節だけ切り換わります。

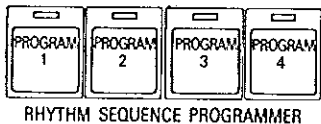
★NORMAL(ノーマル)のボタンは、オートバリエーション、およびPROGRAM(プログラム)のボタンをキャンセルする働きをします。



RHYTHM SEQUENCE PROGRAMMER リズム シーケンス プログラマー

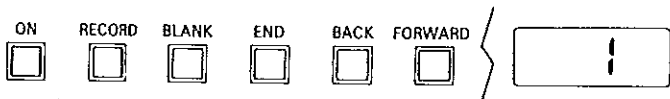
さまざまなリズムパターンの再生順序が、演奏する曲目に合わせて、あらかじめメモリーしておける機能です。この機能を使えば、演奏中にリズムパターンのボタンやブレイクバリエーションのボタンを押し直さなくても、自動的にリズムが切りかわりますから、曲の流れや構成にマッチしたリズムが簡単に得られます。

① 4つのPROGRAM (プログラム) のボタンのうち、ひとつを入れます。



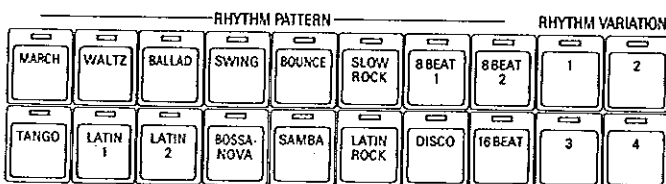
プログラムのボタンは、いわばメモリーバンクにあたり、リズムの再生順序はここに記憶されます。4つのボタンには、それぞれ最長64小節までのメモリーが可能です。

② ON (オン) のボタンを入れます。



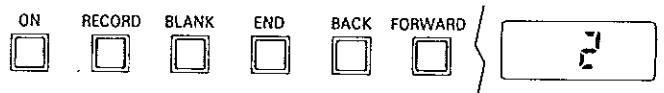
すると、オンのボタンが点灯して、メモリーできる状態になったことを示します。このとき、デジタルディスプレイには「1」が表示されます。

③ 1小節目に再生するリズムパターンをパネル面でセットします。



16×4の合計64種類のリズムパターンと、16×3の合計48種類のブレイクバリエーションのパターンをメモリーすることができます。なお、このときSTART (スタート) のボタンを入れれば、メモリーするリズムをモニターすることができます。

④ RECORD (レコード) のボタンを、メモリーしたい小節の数だけ押します。

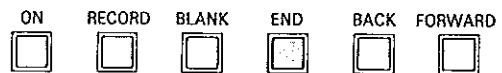


レコードボタンを1回押すごとに、セットしているリズムパターンが1小節ずつメモリーされていきます。このレコードボタンは、デジタルディスプレイの数字を見ながら押してください。レコードボタンを押すたびに、数字がひとつずつ進みます。つまり、この数字は、次にメモリーするのが何小節目かを示すわけです。

⑤ リズムパターンを変更して、レコードボタンを押します。

リズムを変えたい小節数をデジタルディスプレイが示したら、リズムパターンを変更し、レコードボタンでメモリーの操作を続けます。リズムの変更は、何回でも行えます。

⑥ 必要な小節数の分だけメモリーしたら、END (エンド) のボタンを押します。



エンドボタンを押すと、オンのボタンのランプが消え、メモリーが完了したことを示します。メモリーを完了させるのは、ひとつのプログラムボタンにつき64小節以内であれば、何小節目でもかまいません。

★ブレイクバリエーションをメモリーするときは、BREAK (ブレイク) のボタンを押しながら、レコードボタンを押します。

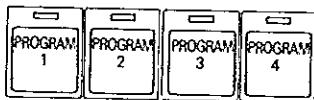
★64小節目までメモリーすると、デジタルディスプレイに「F」(フル) が表示され、それ以上メモリーできないことを示します。

★いったんメモリーした再生順序の情報は、電源を切っても消えることはありません。また、同じプログラムのボタンに新しい情報をメモリーすると、それまでメモリーしていた情報は自動的にキャンセルされます。

メモリーしたリズムの再生

メモリーしたリズムは、プログラムボタンを入れるだけで、簡単に再生することができます。

①リズムをメモリーしたPROGRAM(プログラム)ボタンを入れます。



RHYTHM SEQUENCE PROGRAMMER

2つ以上のプログラムボタンにメモリーし、再生するときにそれらを同時に入れておけば、連続して再生させることができます。その場合は、小さい番号のプログラムボタンから大きい方へ順番にリズムが再生されます。もし、4つのプログラムボタンのすべてにメモリーしておけば、最長256小節までの連続再生が可能です。

②リズムをスタートさせます。

すると、そのときパネル面でセットしているリズムパターンとは関係なく、メモリーさせたリズムがスタートします。エンドボタンを押してメモリーを完了させたところまできたら、再び1小節目までもどり、何度でも再生をくり返します。

★メモリーしたリズムを再生するときでも、リズムのテンポ、ボリューム、バランスなどは、普通のとさと同じようにコントロールできます。

●BLANK(ブランク)

BLANK



このボタンを使うと、リズムなしの小節をメモリーすることができます。リズムをメモリーしているとき、デジタルディスプレイがリズムをブランクにした小節数を示したら、BLANK(ブランク)ボタンを押しながら、レコードボタンを押してください。再生したとき、その小節はリズムが一時的にストップします。

●BACK(バック)・FORWARD(フォワード)

BACK FORWARD

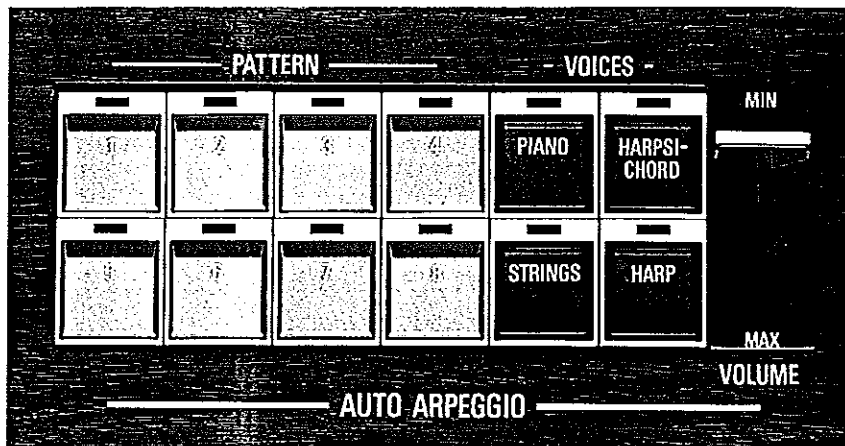


この2つのボタンは、リズムをメモリーしている途中で、すでにメモリーしたリズムを部分的に修正するときに使います。修正するには、まず、デジタルディスプレイの表示を見ながら、BACK(バック)のボタンを押し、修正したい小節まで逆もどりさせてください。次に、新しいリズムパターンをセットし、レコードボタンを押せば、部分的にリズムが修正されます。FORWARD(フォワード)のボタンは、小節を次に進めるときに押してください。

★バックやフォワードのボタンを押すことで、メモリーしている情報が変わったり、消えたりすることはありません。

★オートバリエーションのNORMAL(ノーマル)のボタンを押すと、プログラムボタンはすべてOFFになります。なお、リズムシーケンスプログラマーのONのボタンが入っているときは、ノーマルのボタンを押してもプログラムボタンはOFFになりません。

演奏補助機能



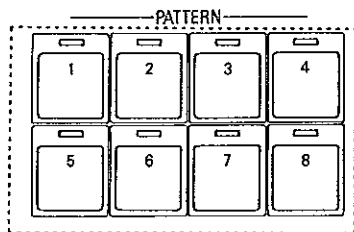
AUTO ARPEGGIO オートアルペジオ

さまざまなパターンの分散和音が、リズムに連動して自動的に得られる機能です。効果音として演奏のバックに流せば、より華やかさを増します。それでは、実際に音をだしてみましょう。

①リズムをセットします。(20ページを参照してください。)

オートアルペジオはリズムに連動して働きますから、必ずオートリズムをセットし、スタートさせてください。アルペジオの速さも、セットしたリズムのテンポによって決められます。また、シンクロススタートのボタンを入れておけば、リズムとアルペジオを同時にスタートさせることができます。

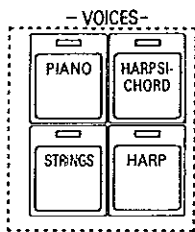
②8つのPATTERN (パターン) のボタンのなかから、アルペジオのパターンをひとつ選びます。



いずれかひとつをONする。

アルペジオのパターンは、ひとつのリズムパターンに対して8つずつ用意されています。この8つのパターンは、それぞれのリズムパターンにふさわしいものがセットされていますから、同じ番号のボタンでも、リズムを変えると別のアルペジオパターンが得られます。

③4つのVOICES (ボイス) のボタンで、アルペジオの音色をひとつ選びます。



いずれかひとつをONする。

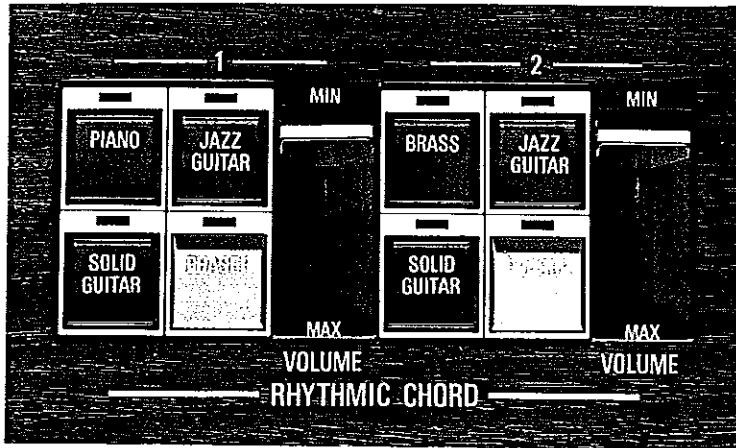
押したボタンの音色がアルペジオの音色になります。それぞれの音色には、サステインなどの効果が、あらかじめ組み込まれています。

④VOLUME (ボリューム) のスライダーを下に下げます。

以上のようにセットして、下鍵盤をおさえると、アルペジオが自動的に得られます。このとき、下鍵盤でおさえるコードのポジションを変えると、それに応じてアルペジオの音域も変わります。リズムやアルペジオのパターンをいろいろと変え、どのようなアルペジオが得られるかを確認してください。なお、オートアルペジオが不要のときは、ボリュームをMIN (最小) にセットします。

★オートベース/コードセクションのLOWER MEMORY (ローメモリー) のボタンを入れると、下鍵盤から指を離した後も、アルペジオが鳴り続けます。

★ブレイク/リレーションを作動させている間は、オートアルペジオが一時的にストップします。



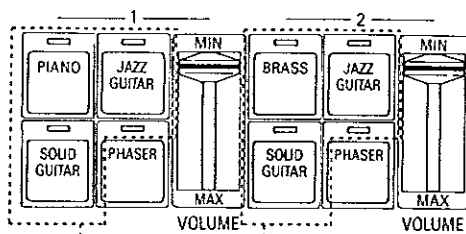
RHYTHMIC CHORD リズミックコード

下鍵盤をおさえ続けるだけで、ピアノやギターなどの音が、リズムに合わせて自動的にきざまれる機能です。選んだリズムにふさわしいカットイング伴奏が得られ、多彩な効果を生み出すことができます。

①リズムをセットします。(20ページを参照してください。)

リズミックコードは、リズムに連動して働きますから、必ずリズムをセットし、スタートさせてください。カットイングの速さも、セットしたリズムのテンポによって決められます。また、シンクロスタートのボタンを入れておけば、リズムとリズミックコードを同時にスタートさせることができます。

②音色を選びます。



それぞれひとつずつONする。

リズミックコードは2つのグループに分かれており、どちらも3つずつの音色が用意されています。1のグループと2のグループでは、リズムのきざみ方がちがいますから、2種類のカットイングパターンが同時に得られます。また、カットイングパターンは、リズムにふさわしいものがセットされていますから、リズムを変えると、別のパターンが得られます。

③2つのVOLUME(ボリューム)のスライダを下にさげます。

2つあるパターンの片方だけをだしたいときは、他方のボリュームをMIN(最小)にセットしてください。

以上のようにセットして下鍵盤をおさえると、②で選んだ音色が、リズムに合わせてカットイングパターンをきざみます。リズムパターンを変え、どのようなカットイングパターンが得られるかを確認してください。なお、リズミックコードが不要のときは、2つのボリュームを両方ともMIN(最小)にセットします。

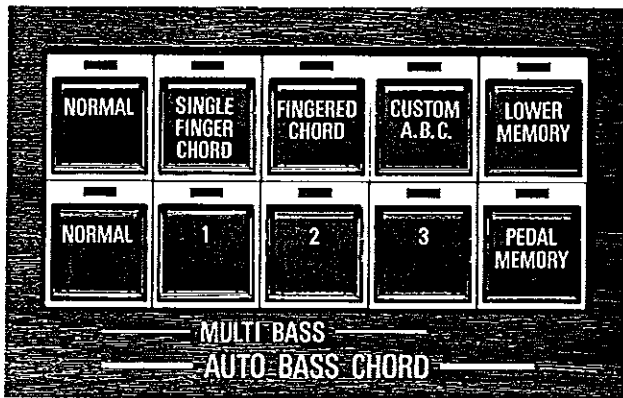
★オートベース/コードセクションのLOWER MEMORY(ローメモリー)のボタンを入れると、下鍵盤から指を離した後も、リズミックコードの音が鳴り続けます。

★ブレーク/リエーションを作動させている間は、リズミックコードがブレーク用のパターンに変化します。

PHASER(フェイザー)



フェイザーとは、音にゆるやかな回転感と広がり感をもたせ、独特の響きにする効果です。これは、音の位相を時間的に変化させるもので、ボタンを入れるだけで、そのとき選んでいるリズミックコードの音色に効果を加えることができます。お好みに応じてセットしてください。



AUTO BASS CHORD オートベース/コード

コード伴奏とベース伴奏が自動的に得られる機能です。シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA、B、C、の3つの使い方ができ、ベース伴奏のパターンはマルチベースによって変化させることができます。また、指や足を鍵盤から離れた後も自動伴奏を持続させるメモリー機能も用意されています。

①リズムをセットします。(20ページを参照してください。)

オートリズムをセットし、スタートさせてください。シンクロスタートのボタンを入れておけば、リズムと自動伴奏を同時にスタートさせることができます。

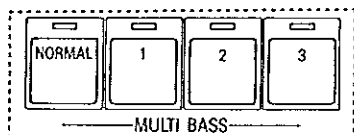
②SINGLE FINGER CHORD (シングルフィンガーコード) のボタンを入れます。



③下鍵盤とペダル鍵盤の音色をセットします。(12、13ページを参照してください。)

下鍵盤とペダル鍵盤の音色群のほかに、リズムコードをセットすれば、カッティング伴奏を同時に得ることができます。お好みに応じてセットしてください。(25ページを参照してください。)

④MULTI BASS (マルチベース) の4つのボタンで、ベース伴奏のパターンを選びます。



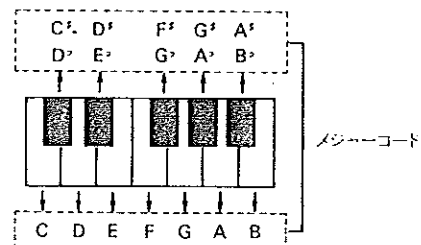
いずれかひとつをONする

NORMAL (ノーマル) のボタンが入っていると、ベース伴奏はペダル鍵盤で踏んだ音がくり返すパターンや1度と5度の音が交互にでてくるパターンになります。1・2・3のボタンでは、より複雑なウォーキングベースなどのパターンが得られます。また、4つのボタンで得られるベースパターンは、それぞれのリズムパターンにふさわしいものがセットされていますから、同じ番号のボタンでも、リズムを変えたとベースパターンも変わります。

以上のようにセットして、下鍵盤を1音だけおさえてください。下鍵盤の音は、おさえた音を根音とするメジャーコードとなって得られます。リズムコードをセットしておけば、リズムに連動したカッティング伴奏も自動的に和音となります。

ペダル鍵盤からは、リズムに連動したベース伴奏が、下鍵盤で検出されたコードをもとにして得られます。マルチベースのボタンでベースパターンを変化させ、どのようなベース伴奏になるかを確認してください。

★下鍵盤でおさえる音と自動的に得られるメジャーコードの関係は次のとおりです。なお、シングルフィンガーコードでは、下鍵盤のどの音域をおさえても、自動伴奏の音域は変わりません。



★下鍵盤を2つあるいは3つ同時におさえることで、マイナーコード、セブンスコード、マイナーセブンスコードが簡単に得られます。

マイナーコード：コードの根音とともに、それより下の音域の黒鍵を同時におさえる。

セブンスコード：コードの根音とともに、それより下の音域の白鍵を同時におさえる。

マイナーセブンスコード：コードの根音とともに、それより下の音域の黒鍵と白鍵を同時におさえる。

★シングルフィンガーコードでは、オートリズムを使わないときでも自動伴奏が得られます。その場合、リズムコードの音はでなくなりますが、下鍵盤の音は自動的にコードとなり、ペダル鍵盤からはコードの根音が自動的にでてきます。

フィンガードコード



下鍵盤でコードをおさえるだけで、コードとベースの自動伴奏が得られる機能です。操作は、FINGERED CHORD(フィンガードコード)を入れ、リズムと下鍵盤、ペダル鍵盤の音色をセットし、マルチベースでベースパターンを選びます。

このようにセットして、下鍵盤でコードをおさえてください。おさえたおりのコードが下鍵盤からでてくるとともに、ペダル鍵盤からは、そのコードにもとづいたベース伴奏がリズムに連動してでてきます。フィンガードコードのベース伴奏では、メジャーやマイナーなどのコード以外にもさまざまな種類のコードが検出されますから、下鍵盤で弾いたコードにふさわしいベース伴奏が自動的に得られます。

カスタムA.B.C.



下鍵盤で弾くコードとは別に、ペダル鍵盤を1音押すだけでベース伴奏が得られる機能です。操作は、CUSTOM A.B.C.(カスタムA.B.C.)を入れ、リズムと下鍵盤、ペダル鍵盤の音色をセットし、マルチベースでベースパターンを選びます。

このようにセットしたうえで、下鍵盤でコードを弾き、ペダル鍵盤を1音おさえてください。下鍵盤は、弾いたコードがそのままでてきますが、ペダル鍵盤からは、おさえた音にもとづいたベース伴奏がリズムに連動してでてきます。ペダル鍵盤でおさえる音は、コードの根音以外の音も任意に選べますから、より変化に富んだ自動伴奏が可能です。また、メジャーやマイナーといったコードの種類も自動的に検出されますから、下鍵盤で弾いたコードにふさわしいベース伴奏が得られます。

LOWER MEMORY(ローメモリー)



下鍵盤から指を離した後、それまで弾いていた音をそのまま持続させる機能です。リズムがスタートしているとき、このボタンを入れると、セットしている下鍵盤の音色が指を離しても鳴り続けます。(スペシャルプリセットの減衰音は除く。)したがって、コードをチェンジするとき以外は、下鍵盤から指を離してもかまいません。なお、ローメモリーはオートベースコードを使っているときだけでなく、リズムさえスタートしていれば働きます。

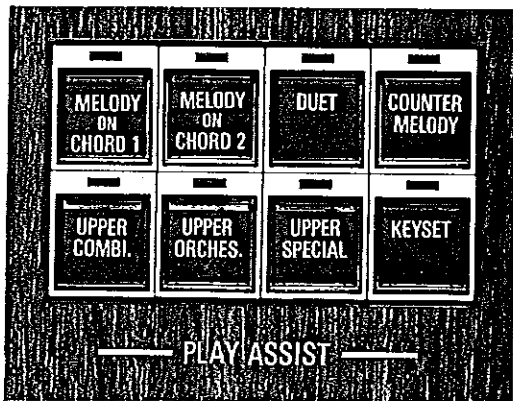
PEDAL MEMORY(ペダルメモリー)



ペダル鍵盤から足を離した後も、ベース伴奏を持続させる機能です。リズムをスタートさせ、オートベース/コードをセットしているとき、このボタンを入れると、ペダル鍵盤の音が足を離しても鳴り続けます。したがって、ベース伴奏の音程を変えるとき以外は、ペダル鍵盤から足を離してもかまいません。なお、ペダルメモリーはオートベース/コードを使っているときだけでなく、リズムさえスタートしていれば働きます。また、ローメモリーとペダルメモリーを同時に使うこともできます。

★左上のNORMAL(ノーマル)のボタンを押すと、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.がキャンセルされます。

★ブレークバリエーションを作動させている間は、ベース伴奏がブレーク用のパターンに変化します。

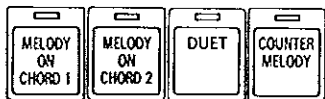


PLAY ASSIST プレイアシスト

上鍵盤で弾くメロディーラインに、さまざまな付加音を自動的に重ねる機能です。2種類のメロディーオンコード、およびデュエット、カウンターメロディーの4つの使い方ができ、いずれもヤマハのコンピュータ技術が結集されています。付加音は音楽的に適合性のあるものが自動的に選ばれますから、表現機能の一部として充分活用することができます。

メロディーラインの下にハーモニーを自動的に加える機能で、1と2の2種類があります。下鍵盤で弾くコードの構成音が検出され、上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーとして重なりますから、厚みのある響きが得られます。

① MELODY ON CHORD (メロディーオンコード) 1または2のボタンを入れます。



メロディーオンコード1：このボタンを選んだときは、最高2音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

メロディーオンコード2：このボタンを選んだときは、最高3音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

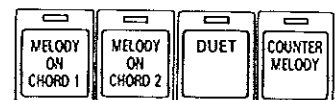
② 音色をセットします。



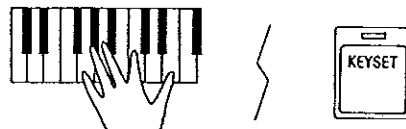
この3つのボタンで、自動的に加わるハーモニーの音色を決めます。ボタンを入れるとその音色群が呼びだされますから、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。2つ以上のボタンを同時にセットすることもできます。なお、これらのボタンでは、アンサンブルセクションのボタンとは関係なく音色群が呼びだせます。

以上のようにセットして、下鍵盤でコードを、上鍵盤でメロディーをそれぞれ弾いてください。メロディーラインの下に美しいハーモニーが自動的に加わります。

③ DUET (デュエット) のボタンを入れます。

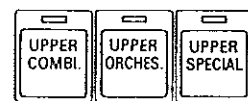


④ 演奏する曲のキー(調)をメモリーします。



デュエットでは、自動的に加わる付加音を音楽的に適合性の高いものとするため、演奏する曲のキーをあらかじめメモリーさせます。まず、演奏する曲のキーのトニックコードを下鍵盤でおさえます。(例えば、ハ長調ならCメジャーコード、イ短調ならAマイナーコードをおさえてください。)次に、そのトニックコードをおさえたまま、KEYSET(キーセット)のボタンを押します。キーセットのランプが点滅して、キーがメモリーされたことを示します。

⑤ 音色をセットします。



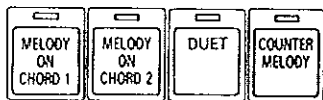
ひとつまたは複数のボタンを入れて、付加音の音色を決めます。入れたボタンの音色群が呼びだされますから、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。

以上のようにセットして、下鍵盤でコードを、上鍵盤でメロディーをそれぞれ演奏してみましょう。メロディーとコードの流れにそった美しい二重奏が自動的に得られます。

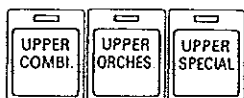
カウンターメロディー

上・下鍵盤を弾くだけで、効果的な対旋律がメロディーラインに加わる機能です。下鍵盤で弾くコードの構成音のなかから、付加音としてふさわしい1音が検出され、自動的にカウンターメロディーとして得られます。

① COUNTER MELODY(カウンターメロディー)のボタンを入れます。



② 音色をセットします。



ひとつまたは複数のボタンを入れて、カウンターメロディーの音色を決めます。入れたボタンの音色群が呼びだされますから、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。

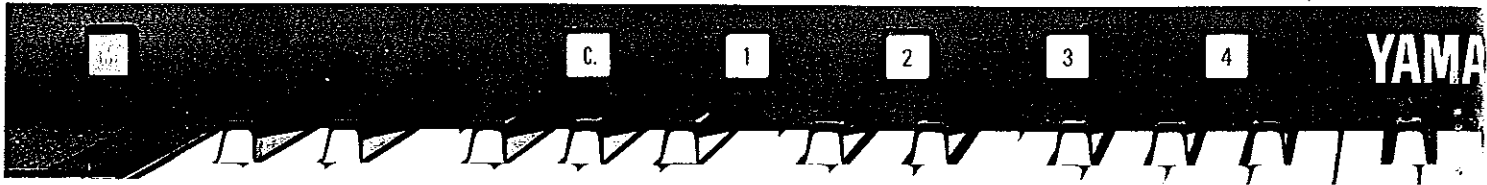
以上のようにセットして、下鍵盤でコードを、上鍵盤でメロディーをそれぞれ演奏してみましょう。メロディーとはちがったタイミングで、効果的なカウンターメロディーが自動的に加わります。

③ ニーレバーコントロール



プレイアシストの4つの機能は、ニーレバーを使うことで、演奏中でも任意にコントロールすることができます。まず、サステインセクションにあるPLAY ASSIST (KNEE)〔プレイアシスト(ニー)〕のボタンを入れ、ニーレバーを真下に立てておきます。演奏中に付加音を加えたいところになったら、ニーレバーを右ひざで右に押してください。押しつけている間だけ付加音が得られます。

レジストレーションメモリーシステム



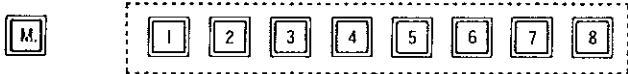
レジストレーションメモリー

上鍵盤と下鍵盤の間にあるボタンを使えば、パネル面でセットしたレジストレーションを、すべて一度にメモリーでき、メモリーしたレジストレーションは、ボタンひとつでいつでも取り出すことができます。音色や効果、リズムのセッティングのほか、ボリュームスライダーの位置もそのままパネル面に再現されますから、レジストレーションの変更を目でも確認できます。それでは、実際に操作してみましょう。

①メモリーしたいレジストレーションをセットします。

メモリーできるセッティングは、音色、効果、リズム、演奏補助機能のすべてのボタンとスライダーです。リズムのテンポもメモリーすることができます。

②M. (メモリー) のボタンを押しながら、1～8のボタンのいずれかをひとつ押します。



M.を押しながら、いずれかひとつをONする

押した番号のボタンが点滅し、①でセットしたレジストレーションがメモリーされたことを示します。以上の操作をしておけば、パネル面のレジストレーションをどのように変更しても、そのボタンを押すだけで、メモリーしたレジストレーションが取りだせます。他の7つのボタンにも、それぞれお気に入りのレジストレーションをメモリーしてみましょう。

★コンビネーションのメモリーボタン、ピブラートのプレイヤーボタン、リズムのプログラムボタンをセットすれば、そのときそれらに記憶させている情報をメモリーすることができます。

★リバーブ、リズムのスタートとシンクロスタートのボタン、ブレイクボタン、レジストレーションパックのボタン、トレモロスピード、マスターボリューム、エクスプレッションペダル、ピッチコントロール、パネルライトのスイッチなどは、メモリーの操作とは無関係です。

★いったんメモリーしたレジストレーションの情報は、電源を切っても消えることはありません。また、同じボタンに新しいレジストレーションをメモリーすると、それまでメモリーしていた情報は自動的に消えます。

メモリーしたレジストレーションの取りだしと操作

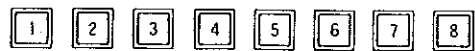
①演奏する曲に使うレジストレーションを1～8のボタンにメモリーしておきます。

ボタンの番号が小さい方から、取りだし順序どおりにメモリーしておくくと便利です。

②曲の最初に使うレジストレーションを、1～8のボタンのひとつを押して取りだします。

押したボタンが点灯し、パネル面では、メモリーしておいたセレクトボタンが自動的に入り、スライダーもメモリーしておいた位置に移動します。1～8のボタンを使わず、パネル面でレジストレーションをセットしてもかまいません。

③演奏を始め、レジストレーションを変更したいところにきたら、それをメモリーしておいたボタンを押します。



ボタンを押すたびに、パネル面のボタンとスライダーの位置が変わり、メモリーしておいたレジストレーションが素早く取りだせます。

★1～8のボタンを押して、メモリーしておいたレジストレーションを取りだしているときでも、パネル面を操作して、レジストレーションを変更することができます。その場合、1～8のボタンのランプは消えますが、メモリーされている情報は消えません。したがって、再度同じボタンを押すと、パネル面で変更した部分はもとにもどります。

○ CANCEL (キャンセル)



このボタンには、パネル面で最後にセットしたレジストレーション(1~8のボタンで変更したレジストレーションは除く)が、つねにメモリーされています。したがって、1~8のボタンを押してレジストレーションを変更した後、このボタンを押せば、パネル面でセットしたレジストレーションに、いつでも戻すことができます。演奏を始めるときに、曲の中でよく使うレジストレーションをパネル面でセットしておき、キャンセルボタンで何度も取り出すという使い方も可能です。

ただし、1~8のボタンを入れているときに、パネル面でレジストレーションを変更すると、それがキャンセルボタンにメモリーされます。したがってこの場合、キャンセルボタンを押して得られるレジストレーションは、パネル面で変更した後のものになります。

○ DISABLE (デイスエーブ)



メモリーしたレジストレーションを取り出すとき、このボタンを入れておくと、リズムセクションと演奏補助機能のセッティングが固定されます。したがって、演奏中に1~8のボタン、およびキャンセルボタンを使ってレジストレーションを変更しても、リズム、オートアルペジオ、リズムコード、オートベース/コード、プレイアシストのセッティングは同じ状態に保たれます。音色と効果のセッティングのみ変更したいときにお使いください。

SLIDER DRIVE (スライダー ドライブ)



SLIDER DRIVE

メモリーしたレジストレーションを取り出すとき、このボタンを入れておくと、すべてのスライダーの位置が固定されます。したがって、演奏中に1~8のボタン、およびキャンセルボタンを使ってレジストレーションを変更しても、ボリュームなどのスライダーは移動しませんが、音量や効果の深さはメモリーしておいたものが得られます。スライダーの作動音が気になるときにお使いください。

○ 電源スイッチを切ったときの自動メモリー

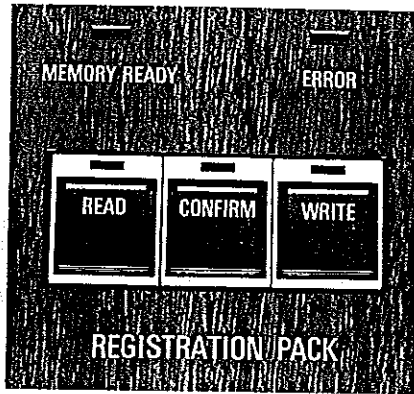
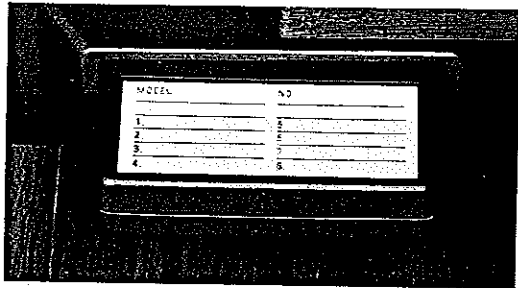
電源スイッチを切ると、そのときパネル面でセットしているレジストレーションが自動的にメモリーされます。したがって、電源を切っている間にパネル面のセッティングを変更しても、再び電源スイッチを入れると、電源を切ったときのセッティングにもどります。

RESET (リセット)



パネル面でセットしているレジストレーションを、すべて一度にキャンセルするボタンです。このボタンを押すと、各音色群やリズムなどのセレクトボタンは左上のものが入り、各音色群のプリセットビブラート、タッチトーンボタンがONになり、アンサンブルセクションは、上・下鍵盤のオーケストラのボタンがONになります。また、ボリュームなどのスライダーはすべてMIN(最小)かノーマルの位置にセットされます。メモリーするレジストレーションをパネル面でセッティングするとき、最初にこのボタンを押せば、レジストレーションの変更もれが防げます。また、リセットボタンは、レジストレーションメモリーとは関係なく、いつでも使うことができます。なお、このボタンを入れることで、1~8のボタンにメモリーした情報が消えることはありません。

★非常にまれなことでありますが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンにメモリーされている情報が変わったり、パネル面が正常に機能しなくなることがあります。その場合は、いったん電源スイッチを切り、RESET(リセット)ボタンを押しながら、電源スイッチを入れてください。



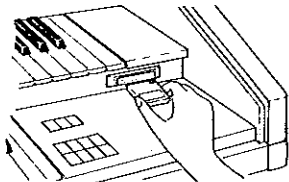
REGISTRATION PACK

レジストレーションパック

1~8のボタンにメモリーしたレジストレーションの情報は、そのままレジストレーションパックに移し、ストックしておくことができます。また、レジストレーションパックに移した情報は、エレクトーンにメモリーさせることができ、いつでも自由に取りだせます。なお、付属のレジストレーションパックには、8つのレジストレーションがあらかじめメモリーされています。まず最初に、この情報をエレクトーンに移してみましょう。

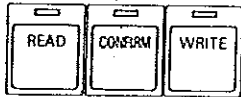
レジストレーションパックの情報を
エレクトーンにメモリーする操作

- ① 付属のレジストレーションパックを、エレクトーンに差し込みます。



図のように、ラベルの貼ってある面を上にして、しっかりと差し込んでください。すると、MEMORY READY(メモリーレディ)のインジケータランプが点灯し、メモリーできる状態になったことを示します。

- ② CONFIRM(コンファーム)のボタンを押しながら、READ(リード)のボタンを押します。



すると、READ(リード)ボタンのランプが点滅し、エレクトーンに情報がメモリーされたことを示します。この操作をした後は、レジストレーションパックを引き抜いてもかまいません。

- ③ レジストレーションを1~8のボタンで取りだします。

1~8のボタンを押すことで、パックにメモリーされていたレジストレーションがパネル面で得られます。

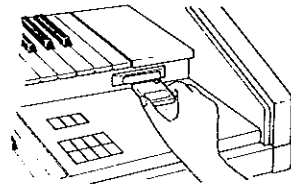
- ★ パックを正しく差し込まなかった場合は、ERROR(エラー)のインジケータランプが点滅します。そのときは、もう一度入れ直してください。
- ★ 以上の操作をすることで、パックにメモリーされている情報が消えてしまうことはありません。ただし、それまで1~8のボタンにメモリーしていた情報は消えてしまいます。

エレクトーン(の)情報を
レジストレーションパックにメモリーする操作

- ① まず、1~8のボタンにパネル面のレジストレーションをメモリーします。(30ページを参照してください。)

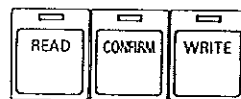


- ② レジストレーションパックを、エレクトーンに差し込みます。



MEMORY READY(メモリーレディ)のインジケータランプが点灯することを確認してください。

- ③ CONFIRM(コンファーム)のボタンを押しながら、WRITE(ライト)のボタンを押します。



すると、WRITE(ライト)ボタンのランプが点滅し、レジストレーションパックに情報がメモリーされたことを示します。

- ④ レジストレーションパックを引き抜きます。

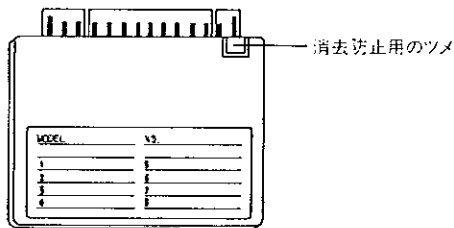
このようにして、必要なレジストレーションをパックに移し、ストックしておくことができます。パックにメモリーした情報は、READ(リード)ボタンを使うことで、いつでもエレクトーンに移すことができます。

- ★ 以上の操作で、エレクトーンにメモリーされている情報が消えてしまうことはありません。ただし、それまでレジストレーションパックにメモリーされていた情報は消えてしまいます。

その他のコントロール

★数多くのレジストレーションをストックしておきたい場合は、別売りのレジストレーションパックをお求めください。なお、別売りのレジストレーションパックを使用した場合、パックをエレクトーンに差し込むとERROR(エラー)のインジケータランプが点滅します。この場合は、パックを差し込んだまま、まずCONFIRM(コンファーム)のボタンを押してください。ERROR(エラー)の点滅が消え、WRITE(ライト)の操作によってエレクトーンの情報パックに移せるようになります。

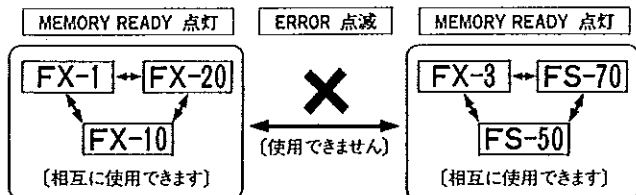
★レジストレーションパックにメモリーした情報を消したくない場合は、消去防止用のツメを折ってください。このツメを折っておけば、たとえWRITE(ライト)のボタンを使ってメモリーの操作をしても、パックの情報は保護されますから、誤って消してしまうミスが防げます。



レジストレーションパックを別の機種で使用する場合の注意

ある機種でメモリーしたパックを、ほかの機種で使用する場合は、次の点にご注意ください。

●使用できる機種と、できない機種があります。



●メモリーした音色や機能が、使用しようとする機種にない場合、その情報は再現されません。

★ソロ鍵盤のレジストレーションをメモリーしたパックを、FX-10またはFS-50で使うときなどにご注意ください。

★FX-1でメモリーしたパックをFX-20、FX-10で使った場合、プレイアシストが再現することがあります。プレイアシスト機能の情報を取りのぞくには、プレイアシストをOFFにしてメモリーのやり直しをしたうえで、ライトの操作によって再びパックにメモリーしてください。

(注)レジストレーションパックを持ち運ぶときは、パックの情報が衣類などの静電気によって消えてしまうことがありますので、必ず専用のケースをお使いください。

●MASTER VOLUME (マスターボリューム)

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみで、右に回すほど音量が大きくなります。

●POWER (パワースイッチ)

エレクトーンの電源スイッチです。ボタンを入れると、パイロットランプが点灯します。

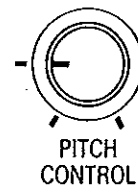
●LIGHTS (パネルライトスイッチ)(FS-70・FX-3のみ)

エレクトーンのパネル面と鍵盤を照らすパネルライトのスイッチで、棚板下にあります。ON側にセットするとライトが点灯します。



●PITCH CONTROL (ピッチ コントロール)

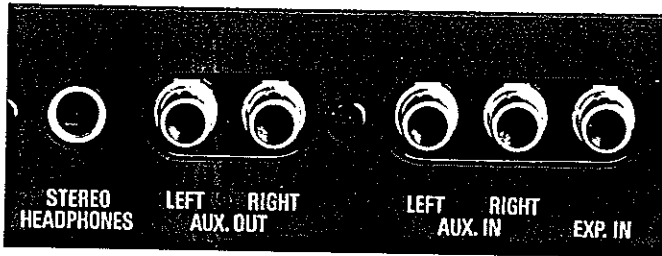
エレクトーン全体の音程が、微妙にコントロールできるつまみで、棚板下にあります。図の位置が標準セット位置で、右に回すほど音程が高くなります。



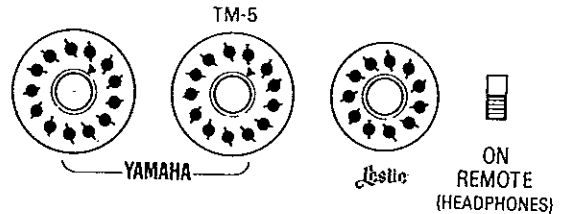
●MIC.VOLUME (マイクロホンボリューム)(FX-3のみ)

FX-3にマイクロホンを接続したとき、マイクロホンの音量をコントロールするつまみで、棚板下にあります。右に回すほど音量が大きくなりますので、適切な音量に調節してください。

付属端子・トーンキャビネットコネクター



(図はFS-70・FS-50です。)



付属端子

●STEREO HEADPHONES(ステレオヘッドホン端子)
ステレオヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンを使うと、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。なお、モノラルヘッドホンを接続することもできます。[インピーダンス200Ω]

●AUX. OUT LEFT-RIGHT(ライン出力端子)
アンプやトーンキャビネットと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたいときに使う端子です。また、テープデッキのLINE-INジャックと接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。[インピーダンス470Ω]

●AUX. IN LEFT-RIGHT(ライン入力端子)
ステレオやテープの音をエレクトーンのスピーカーからだしたいときに使う端子です。レコード、テープの音に合わせて演奏することができます。[インピーダンス10KΩ]

●EXP. IN(エクスプレッション連動入力端子)
シンセサイザーやリズムボックスなどと接続するときに使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールできます。[インピーダンス9KΩ]

●MIC.(マイクロホン入力端子)(FX-3のみ)
マイクロホンを接続して、ご自分の歌や司会者の声などをトーンキャビネットからだしたいときに使う端子です。なお、マイクロホンの音量はマイクロホンボリューム(前ページ参照)でコントロールできます。[インピーダンス21KΩ]

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

トーンキャビネットコネクター

トーンキャビネットコネクターは、エレクトーンの背面にあります。ステージ演奏の際などにご使用ください。

●YAMAHA(ヤマハトーンキャビネットコネクター)
FS-70・FS-50：ヤマハのトーンキャビネットと接続する13ピンのコネクターです。TM-5は右側のコネクターに、TM-1などのトーンキャビネットは左側のコネクターに接続してください。

FX-3：TM-1などのトーンキャビネットと接続する13ピンのコネクターで、レフト、ジェネラル、ライトの3つが用意されています。トーンキャビネットを1台使用する場合は、ジェネラルのコネクターに接続し、2台使用する場合は、レフトとライトのコネクターにそれぞれ接続してください。なお、2台使用する場合、ジェネラルのコネクターに1台接続し、そのトーンキャビネットの裏面のコネクターにもう1台を接続するという使い方もできます。

●LESLIE(レスリースピーカーコネクター)
レスリースピーカーを接続する場合は、この11ピンのコネクターをお使いください。

●REMOTE(リモートスイッチ)(FS-70・FS-50のみ)
ヘッドホンが接続しているとき、このスイッチを入れると、エレクトーンとエレクトーンに接続したトーンキャビネットの両方から音がでなくなります。エレクトーンから音をださずに、トーンキャビネットからだけ音をだしたい場合は、このスイッチを切ってください。

ヤマハトーンキャビネット TM-1 (アイボリー・ウォルナット)

ヤマハエレクトーンの高クオリティな音を、より忠実にバランスよく再生するため、トーンキャビネットTM-1が同時開発されました。コンパクトでありながら総合出力210Wのハイパワーをもち、低音から高音まで幅広くクリアに再生します。特にメインアンプスピーカーとも3チャンネルシステムですから、1台でも立体的で豊かな音のひろがりが見られます。

●POWER(リモート切替スイッチ)

このスイッチをREMOTE(リモート)側に入れると、接続したエレクトーンの電源スイッチによってTM-1の電源も同時にON/OFFすることができます。ON(オン)側に入れると、エレクトーンの電源スイッチとは関係なく電源が入ります。

●VOLUME(ボリューム)

TM-1だけの音量をコントロールするつまみです。

●TONE CABINET(トーンキャビネットコネクター)

トーンキャビネットを接続するコネクターです。これを使えば何台でもトーンキャビネットを増設することができます。

取扱上の注意

未永く安全にお使いいただくために

設置場所について

- ①直射日光はさけてください。
- ②暖房器具の近くには設置しないでください。
- ③湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
- ④振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- ⑤壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。

外装・鍵盤のお手入れは

- ①外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ②よごれがひどい場合は、水を少しふくませ、かたく絞った布で拭きとってください。
- ③シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- ④外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。

電源コードを大切に

- ①エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っかいたりしないように注意してください。
- ②コンセントから抜くときは、電源コードを引っはらないでください。
- ③電源コードの巻き足しは危険ですからさけてください。

無理な力を加えないでください

- ①ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- ②椅子、譜面板などの取扱いは、疵をつけないように注意してください。

セットの移動時には

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

他の機器との接続について

- ①トーンキャビネットなどを接続する場合は、34ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

落雷に対する注意を

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。

万一異状があったら

使用中に音がでなくなったり、異常なおいや煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

本書と保証書の保管について

本書をお読みにした後は、保証書とともに大切に保管してください。

レジストレーションパックの保管

レジストレーションパックの内部には、LSIなどの電子部品が入っていますので、その取扱いや保管では、次の点に注意してください。

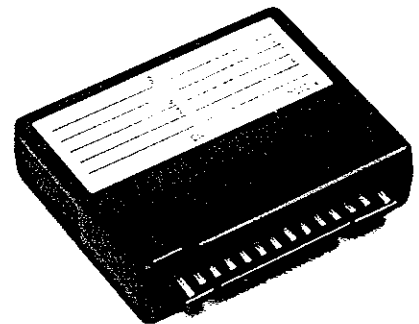
- ①落としたり、強い力を加えたりしないでください。
- ②差込口の金属部を、かたい物などでこすったりして、疵をつけないでください。
- ③内部に水やホコリの入らないように、ご注意ください。
- ④保管する場合は、過度な温度や湿気にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。

★レジストレーションパックにメモリーされた情報は、内蔵の電池によってバックアップされていますが、長年使用している間に、この電池は消耗されます。電池が消耗してしまうと、メモリーした情報は消え、新しい記憶操作もできなくなります。このような場合は、ご購入になった販売店、または電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。(電池の寿命は、通常の使用で約5年です。)

レジストレーションパック(別売り)

レジストレーションパックは、付属のもの以外に、別売りオプションとしても用意しています。数個のパックにレジストレーションをメモリーし、ストックしておけば、コンサートなどで幅広くご活用いただけます。

★別売りのレジストレーションパックを使用する場合は、まず最初にパックをエレクトーンに差し込み、CONFIRM(コンファーム)のボタンを押してください。ERROR(エラー)の点滅が消え、WRITE(ライト)の操作ができるようになります。



●譜面板の取りつけと収納(FX-3)

FX-3の譜面板は、椅子の中に収納されています。本体に取りつけるときは、落としたりしないよう取り扱いに注意してください。なお、セットの移動時には、再び椅子の中に収納してから移動してください。

故障と誤りやすい現象

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現象	原因と処置
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの声は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンを設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になるときは、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音、低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音色がある。	主に管楽器系の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やプレスノイズなど、よりリアルな特徴をそなえた楽音が得られます。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、ソロ音色、アッパー/ローカustomボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびソロ音色、アッパー/ローカcustomボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。また、ソロ音色、アッパー/ローカcustomボイス音色では、他の音色と組み合わせずに各鍵盤で単独に使った場合は、後でおさえた1音が優先されます。
上・下鍵盤をあわせて同時に13音以上おさえると、でない音がある。	このエレクトーンでは、上・下鍵盤を13音以上同時におさえると発音しない音があります。ただし、上・下鍵盤あわせて12音まで同時に発音しますので、通常の演奏にはまったく支障はありません。
電源スイッチを入れると、スライダーが移動する。	このエレクトーンでは、電源スイッチを切ると、そのときパネル面でセットしているレジストレーションを自動的にメモリーするようになっています。したがって、電源を切っている間にボタンのセッティングやスライダーの位置を変更しても、再び電源スイッチを入れると変更前のレジストレーションに戻ります。(31ページ参照)
上・下鍵盤の音色を選んで、ボリュームのスライダーを下げて、選んだ音色がでてこない。	アンサンブルセクションのなかで必要なボタンが入っていないためです。上・下鍵盤では音色の組み合わせやキャンセルが素早く行えるよう、アンサンブルのボタンで集中的にコントロールするようになっています。必要な音色群のボタンを入れてください。(6ページ参照)
音色セレクトボタンを入れただけで、効果のボタンが入る。	音色によっては、レスポンスファースト、ティンバーバリエーション、シンフォニックなどのボタンが、音色を選ぶと同時に自動的に入るようになっています。これは、それらの効果をかけたほうが、その音色にふさわしい響きが得られるためです。あえて効果をかけたくない場合は、ONされている効果のボタンを押すとキャンセルされます。
鍵盤をレガートに弾いたとき、アタック音またはデレイビブラートが最初の音にしかかからない。	上・下鍵盤のコンビネーションのアタック音、およびオーケストラ音色にかかるデレイビブラートは、鍵盤をレガートに弾いた場合、最初の音に対してだけかかるように設計されています。

現象	原因と処置
セットとレバーのボタンを押しても、ビブラートのメモリーができない。(プレイヤーのボタンが点滅しない)	ビブラートのかかり方を変更したい音色のボタンを押さなかったためです。レバーのボタンを押した後、必ず音色セレクトボタンを押して、インジケータランプが点灯したことを確認してからメモリーの操作を行ってください。(17ページ参照)
プリセットビブラートのボタンを入れても、ビブラートがかからない。	音色によっては、プリセットビブラートのボタンを入れても、わずかしかビブラートのかからないものや、まったくビブラートがかからないものがあります。また、ビブラートのかかり方をメモリーせずにプレイヤーのボタンを入れると、ビブラートはかからなくなります。(16ページ参照)
タッチトーンのボタンを入れて鍵盤を強くおさえても音量・音色があまり変化しない。	イニシャルタッチ、アフタータッチによってコントロールできる音量・音色の変化の度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。したがって、オーケストラ音色におけるイニシャルタッチのように、音色によってはあまり変化しないものがあります。
ソロ音色をカブラー機能によって上鍵盤に移しているとき、低音域でソロ音色の音がでない。	ソロ音色は、3オクターブ(c1~c3)の音域でのみ発音されます。したがって、上鍵盤に移した場合でも中央Cより下の音域では発音しません。(14ページ参照)
デジタルディスプレイのテンポ表示の数字が細かく変わらない。	操作性を高めるため、テンポつまみでセットするリズムのテンポは、実際の演奏に支障のない範囲で、あらかじめ決められたものになっています。
パネル面でセットしたリズムパターンとは、違うリズムがでてくる。	リズムシーケンスプログラマーのプログラムボタンが入っているためです。プログラムボタンが入っていると、パネル面でセットしたリズムは、メモリーさせたリズムに自動的に変更されます。(22ページ参照)
下鍵盤、あるいはペダル鍵盤が鳴りっぱなしになる。	リズムがスタートしているとき、オートベース/コードセクションのローメモリーを入れると、下鍵盤から指を離しても音が鳴り続けます。また、ペダルメモリーを入れると、ペダル鍵盤から足を離しても音が鳴り続けます。(27ページ参照)
上鍵盤と下鍵盤をおさえても、プレイアシストによる付加音がでてこない。	付加音の音色がセットされていないためです。音色群を呼び出すボタンをひとつ、あるいは複数入れ、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。また、メロディーオンコード、デュエット、カウンターメロディーのいずれかを使用しているとき、上鍵盤の低音域でメロディーを弾くと、付加音が発音しない場合があります。(28、29ページ参照)
レジストレーションメモリーのキャンセルボタンを押しても、最初のレジストレーションに戻らない。	キャンセルボタンでは、パネル面で最後にセットしたレジストレーションが得られるようになっています。したがって、1~8のボタンを入れているとき、パネル面でレジストレーションを少しでも変更すると、それがキャンセルボタンにメモリーされます。(31ページ参照)
レジストレーションメモリーの1~8のボタンを押しても、リズムやオート機能のセッティングが変わらない。または、すべてのスライダーが移動しない。	ディスプレイ、またはスライダードライブのボタンが入っているためです。すべてのレジストレーションを切りかえたい場合は、ディスプレイ、スライダードライブのボタンを切ってください。(31ページ参照)
ライトとコンファームのボタンを押しても、レジストレーションパックにメモリーできない。(ライトのランプが点滅しない)	レジストレーションパックの消去防止用のツメが折れているためです。このツメが折れていると、レジストレーションパックにメモリーする操作はできません。また、レジストレーションパックを正しく差し込まないと、ライトおよびリードのメモリー操作はできません。必ずメモリーレディのランプが点灯することを確かめてから操作してください。(32ページ参照)
パネル面のボタンなどが正常に働かない。(ボタンのランプがすべて消えてしまうなど。)または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	このような場合には、いったん電源スイッチを切り、リセットのボタンを押しながら電源スイッチを入れると、正常に機能するようになります。それでもなお正常な状態に戻らないときは、お求めの楽器店、あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

サービスと保証

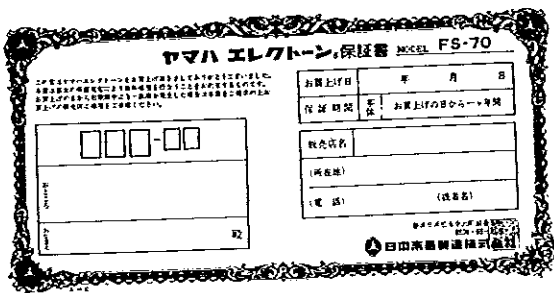
保証

エレクトーン®の保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1か年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン®納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社がエレクトーン®をご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1か年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーン®の椅子の下にある保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーン®をお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーン®のご説明かたがたお納めしたエレクトーン®の調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーン®についてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけくださるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン®技術者が調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1か年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介いたします。

サービスのご依頼

○ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(36-37ページの「故障と誤りやすい現象」を参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。

2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音が出る●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。

3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。
症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。

2. お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。

3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

全国のヤマハ特約店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔修理受付および修理品お預り窓口〕

北海道電音サービスセンター

☎(011)781-3621
〒065 札幌市東区本町1条9-3

仙台電音サービスセンター

☎(0222)36-0249
〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

東京電音サービスセンター

☎(044)434-3100
〒211 川崎市中原区本月1184

新潟電音サービスステーション

☎(0252)43-4321
〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F

浜松電音サービスセンター

☎(0534)56-9211
〒432 浜松市東伊場2-13-12

名古屋電音サービスセンター

☎(052)652-2230
〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター

大阪電音サービスセンター

☎(06)877-5262
〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

四国電音サービスステーション

☎(0878)51-7777 (0878)22-3045
〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内

広島電音サービスセンター

☎(082)874-3787
〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39

九州電音サービスセンター

☎(092)472-2134
〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

〔本 社〕

営業技術課 電音サービスセンター

☎(0534)65-1111
〒430 浜松市中区沢町10-1

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

仕様と音域表

仕様

青色の部分はFS-70・FX-3のみの仕様です。

- 鍵盤
 - ソロ鍵盤 : 37鍵c₁~c₃(3オクターブ)
 - 上鍵盤 : 49鍵c~c₃(4オクターブ)
 - 下鍵盤 : 49鍵C~c₃(4オクターブ)
 - ペダル鍵盤 : 13鍵C~c (1オクターブ)
- コンビネーション
 - 上鍵盤 : コンビネーションレバー、メモリー1・2・3、プリセット1、プリセット2、プリセット3、プリセット4
(コントロール) ボリューム
(レバー) 16'・8'・5 $\frac{1}{3}$ '・4'・2 $\frac{2}{3}$ '・2'・1'、
アタック4'・2 $\frac{2}{3}$ '・2'、アタックレンジ
 - 下鍵盤 : コンビネーションレバー、メモリー1・2・3、プリセット1、プリセット2、プリセット3、プリセット4
(コントロール) ボリューム
(レバー) 8'・4'・2 $\frac{2}{3}$ '・2'
 - ペダル鍵盤 : コンビネーションレバー、メモリー、プリセット1、プリセット2
(コントロール) ボリューム
(レバー) 16'・8'
 - メモリー・エフェクト : プログラムセット、レスポンスファースト、
ティンバーバリエーション
- オーケストラ
 - 上鍵盤 : スtrings1、Strings2、Strings3、ブラス1、ブラス2、
リード1、リード2、ボーカル、スパイス1、スパイス2
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、
ボリューム
 - 下鍵盤 : スtrings1、Strings2、ブラス1、ブラス2、リード、
ボーカル1、ボーカル2、スパイス
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、
ボリューム
- スペシャルプリセット
 - 上鍵盤 : ピアノ、ハーブシコード、チェレスタ、ピブラフォン、マリンバ、
マンドリン、バンジョー、ジャズギター、ブラス1、ブラス2、
コズミック
(エフェクト・コントロール) タッチトーン、ボリューム
 - 下鍵盤 : ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ハーブ、
アコースティックギター、ジャズギター、ブラス1、ブラス2、
コズミック
(エフェクト・コントロール) タッチトーン、ボリューム
- カスタムボイス
 - 上・下鍵盤 : フルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォン、トランペット、
トロンボーン、バイオリン、ジャズギター、コズミック1、コズミック2、
コズミック3、
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチビブラート、
タッチトーン、ボリューム
 - ペダル鍵盤 : コントラバス1、コントラバス2、コントラバス3、チューバ、
エレクトリックベース1、エレクトリックベース2、
エレクトリックベース3、コズミック
(コントロール) プリリアンス、ボリューム
- ソロ
 - 音色 : ヒッコロ、フルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォン、
トランペット1、トランペット2、ホルン、トロンボーン、バイオリン、
ジャズギター、ハーモニカ、コズミック1、コズミック2
 - エフェクト・コントロール : デチューン、カフラー(ソロウエア)、
トランスポジション(ダウン・ノーマル・アップ)、プリセットビブラート、
タッチビブラート、タッチトーン、プリリアンス、ボリューム、
スライドコントロール
- アンサンブル
 - アッパーコンビネーション、アッパーオーケストラ、アッパーベシヤルプリセット、
アッパーカスタムボイス、ローコンビネーション、ローオーケストラ、
ローズベシヤルプリセット、ローカスタムボイス
- エフェクト・コントロール
 - サステイン : アッパーサステイン(ニー)、ローサステイン(ニー)、
ペダルサステイン
(レンジコントロール) アッパー、ロー、ペダル
 - シンフォニック : セレステ、シンフォニック、アッパーコンビネーション、
アッパーオーケストラ、ローコンビネーション、ローオーケストラ
 - トレモロ : コーラス、トレモロ、アッパーコンビネーション、アッパーオーケストラ、
ローコンビネーション、ローオーケストラ、トレモロスピード
 - ビブラート : セット、レバー、プレイヤー、プリセット
(レバー) タッチデプス、ディレイ、デプス、スピード
(インジケーター) ソロ、アッパーオーケストラ、
アッパー/ローカスタムボイス、ローオーケストラ、ペダル
リバーブ、グライト(フットスイッチ)、マニュアルバランス
- オートリズム
 - リズムパターン : マーチ、ワルツ、バラード、スイング、バウンス、スローロック、
8ビート1、8ビート2、タンゴ、ラテン1、ラテン2、ボサノバ、サンバ、
ラテンロック、ディスコ、16ビート
 - リズムバリエーション : 1・2・3・4
 - コントロール : シンクロナイズ、スタート、テンポ、ボリューム、バランス、
リズムストップ(フットスイッチ)、テンポインジケーターランプ、
デジタルディスプレイ
 - ブレイクバリエーション : 1・2・3、ブレイク、
ブレイクバリエーション(フットスイッチ)
 - オートバリエーション : ノーマル、4バー、8バー、16バー
 - リズムシーケンスプログラマー : プログラム1・2・3・4、オン、レコード、ブランク、
エンド、バック、フォワード
- オートアルペジオ
 - パターン : 1・2・3・4・5・6・7・8
 - ボイス : ピアノ、ハーブシコード、Strings、ハーブ
(コントロール) ボリューム
- リズムミックコード
 - パターン1 : ピアノ、ジャズギター、ソリッドギター
(エフェクト・コントロール) フェイザー、ボリューム
 - パターン2 : ブラス、ジャズギター、ソリッドギター
(エフェクト・コントロール) フェイザー、ボリューム
- オートベース/コード
 - ノーマル、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.、
ローメモリー、ペダルメモリー、マルチベース(ノーマル・1・2・3)
- プレイアシスト
 - メロディーオンコード1、メロディーオンコード2、デュエット、カウンターメロディー
(音色セクター) アッパーコンビネーション、アッパーオーケストラ、
アッパーベシヤルプリセット
(コントロール) キーセット、プレイアシスト(ニー)
- レジストレーションメモリー
 - プリセットボタン : 1・2・3・4・5・6・7・8
 - コントロール : メモリー、キャンセル、ディスプレイ、スライダードライブ
 - レジストレーションバック : リード、コンファーム、ライト
(インジケーター) メモリーレディ、エラー
- メインコントロール
 - マスターボリューム、エクスプレッションペダル、リセット、ニーレバー、
フットスイッチ、パワースイッチ、パイロットランプ、ピッチコントロール、
ハールドレインスイッチ、マイクロホンボリューム(FX-3のみ)

●付属端子・トーンキャビネットコネクタ

付属端子 : ステレオヘッドホン、AUX.OUT(L-R)、AUX.IN(L-R)、EXP.IN、MIC.(FX-3のみ)

トーンキャビネットコネクタ : ヤマハ×2、レスリー、リモート(FS-70・FS-50)、ヤマハ(レフト・ジェネラル・ライト)、レスリー(FX-3)

◎アンプ(FS-70・FS-50)

センター : 90W(rms)、レフト : 60W(rms)、ライト : 60W(rms)

●スピーカー(FS-70・FS-50)

センター : 30cm・20cm・5cm、レフト : 20cm・5cm、ライト : 20cm・5cm

●定格電圧100V・定格消費電力275W(FS-70・FS-50)150W(FX-3)・定格周波数50/60Hz

●寸法・重量

FS-70本体 : 間口116.8cm、奥行75.3cm、高さ110.3cm(譜面板を立てたとき126.0cm)、重量132kg

FS-50本体 : 間口116.4cm、奥行66.8cm、高さ105.8cm(譜面板を立てたとき119.8cm)、重量122kg

FX-3本体 : 間口125.6cm、奥行73.5cm、高さ102.8cm(譜面板をつけたとき122.0cm)、重量113kg(譜面板をつけたとき115.5kg)

子 : 間口66.0cm、奥行31.5cm、高さ55.7cm、重量7.5kg(FS-70・FS-50)

間口84.0cm、奥行32.0cm、高さ55.7cm、重量18.5kg(FX-3)

●外装

リアルアメリカンウォルナット(FS-70・FS-50)、アイボリー・エナメルフィニッシュ(FX-3)

●付属品

レジストレーションバック、譜面板(FX-3)

〔トーンキャビネット TM-1〕

●入力

13ピンコネクタ(10m接続ケーブル付き)

●アンプ

センター : 90W(rms)、レフト : 60W(rms)、ライト : 60W(rms)

●スピーカー

センター : 36cm・20cm・5cm、レフト : 20cm・5cm、ライト : 20cm・5cm

●コントロール

パワースイッチ(REMOTE/ON)、パイロットランプ2、ボリューム

●付属端子

アウトプット端子(13ピン)

●定格電圧100V・定格消費電力140W・定格周波数50/60Hz

●寸法

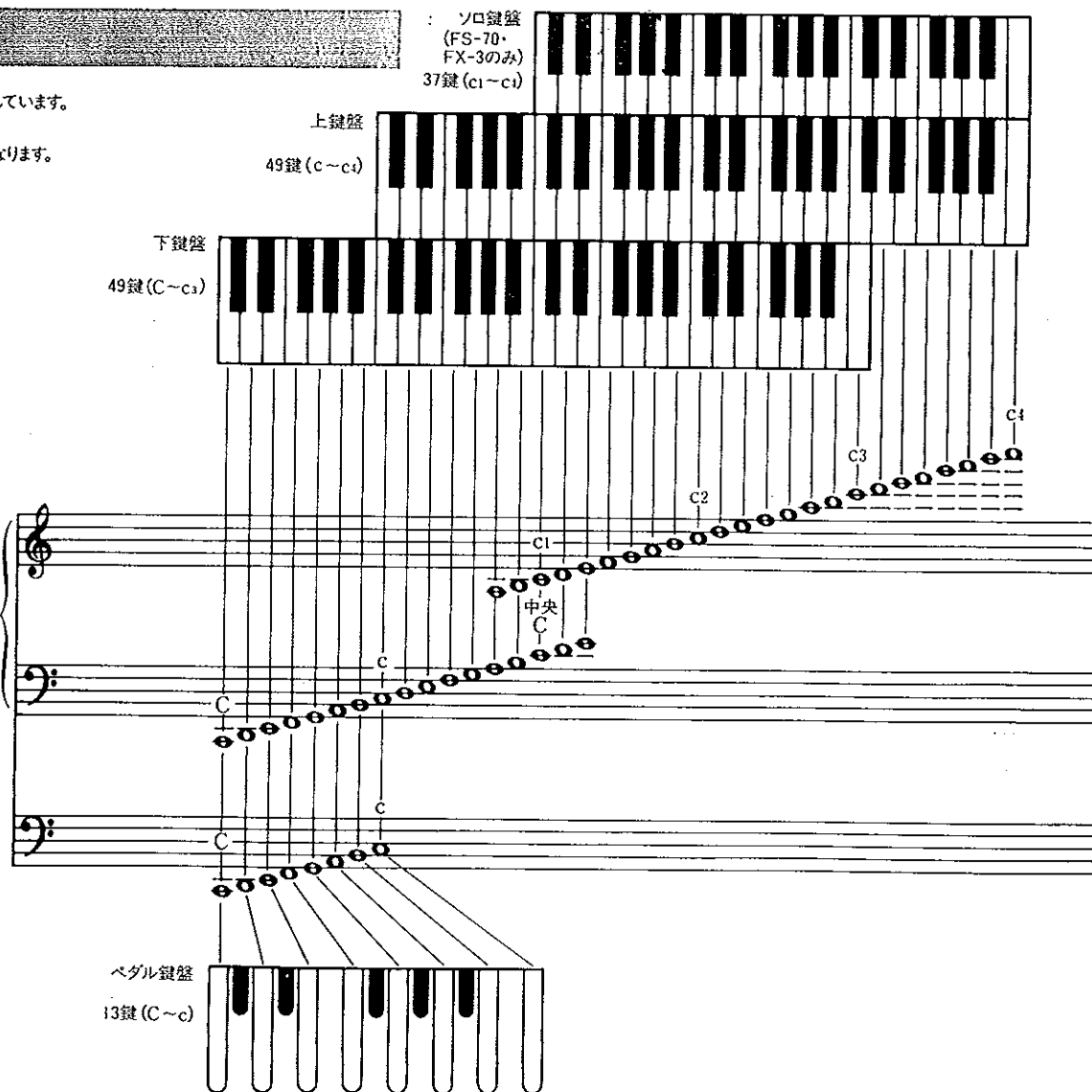
アイボリー : 間口64.4cm、奥行45.6cm、高さ89.5cm

ウォルナット : 間口64.4cm、奥行45.6cm、高さ89.0cm

●重量 : 75kg

音域表

- この音域表は8'の音を基準にしています。
- ペダル鍵盤の実音は、記譜より1オクターブ低い音になります。



本 社 / 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(65)1111

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル
TEL. 03(572)3111

大阪支店 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館
TEL. 06(251)1111

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. 052(201)5141

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2151

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL. 011(512)6113

仙台支店 / 〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル
TEL. 0222(22)6141

広島支店 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL. 082(244)3744

浜松支店 / 〒430 浜松市鍛冶町321-6
TEL. 0534(54)4116

エレクトーン R は当社の登録商標です



YAMAHA

日本楽器製造株式会社